

ウォーターフロントから海洋空間まで、人間が住み・働き・憩う環境をデザインする。

No.
98
海建

カイケン

magazine

年報
号

研究室説明会の日程
研究室紹介
博士論文・修士論文・卒業研究
就職状況

目次

平成27年度 研究室説明会日程・クラス担任・学科校務担当	2	研究室紹介(環境保全系)	12
平成27年度 学生受賞	3	教員研究業績・研究室活動業績(空間利用系)	16
学科イベントカレンダー	3	教員研究業績・研究室活動業績(資源・エネルギー開発系)	22
研究室紹介(空間利用系)	4	教員研究業績・研究室活動業績(環境保全系)	25
研究室紹介(資源・エネルギー開発系)	11	就職情報	26

●平成27年度 研究室説明会日程

時間 日程・教室	2時限		3時限		4時限	
	10:40~11:20	11:30~12:10	13:20~14:00	14:10~14:50	15:00~15:40	15:50~16:30
4月3日(金) 1441教室	近藤 [研究室]	浜原・福井 [研究室]	北嶋 [研究室]	増田・居駒・恵藤 [研究室]	畔柳・菅原 [研究室]	桜井 [研究室]
4月4日(土) 1441教室	山本 [研究室]	佐藤 [研究室]	小林・野志 [研究室]	登川 [研究室]	大塚 [研究室]	岡本 [研究室]

平成27年度 クラス担任

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
学部1年	登川 幸生	1357	047-469-5226	togawa.sachio@nihon-u.ac.jp
	野志 保仁	1331	047-469-5281	noshi.yasuhito@nihon-u.ac.jp
学部2年	居駒 知樹	1342	047-469-8482	ikoma.tomoki@nihon-u.ac.jp
	岡本 強一	1335	047-469-5568	okamoto.kyoichi@nihon-u.ac.jp
学部3年	桜井 慎一	1356	047-469-5526	sakurai@ocean.cst.nihon-u.ac.jp
	恵藤 浩朗	1341	047-469-5730	eto.hiroaki@nihon-u.ac.jp
学部4年	浜原 正行	1366	047-469-5527	hamahara@ocean.cst.nihon-u.ac.jp
	北嶋 圭二	1361	047-469-5385	kitajima.keiji@nihon-u.ac.jp
	山本 和清	1346	047-469-5483	yamamoto.kazukiyo@nihon-u.ac.jp
大学院	近藤 典夫	1353	047-469-5423	kondo.norio@nihon-u.ac.jp

平成27年度 学科校務担当

	教員氏名	研究室	電話番号	E-mail
就職指導	浜原 正行	1366	047-469-5527	hamahara@ocean.cst.nihon-u.ac.jp
学生相談	大塚 文和	1334	047-469-5480	otsuka.fumikazu@nihon-u.ac.jp
留学生担当	畔柳 昭雄	1345	047-469-5424	kuroyanagi.akio@nihon-u.ac.jp

学科事務室

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部 海洋建築工学科事務室
TEL : 047-469-5420 FAX : 047-469-9446

岡崎 敏美
林 敦子

okazaki.toshimi@nihon-u.ac.jp
hayashi.atsuko@nihon-u.ac.jp

学生受賞

● 部科校長賞

秋本悠喜：(学術業績) 日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞 受賞
 鷹島充寿：(学術業績) 日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞 受賞
 山下和浩：(学術業績) 日本沿岸域学会研究討論会優秀講演賞 受賞
 涌井 匠：(学術業績) MITSUBISHI CHEMICAL JUNIOR DESIGN AWARD Excellent Prize 受賞

● 優等賞

第1位 小川千明
 第2位 多津田紗季
 第3位 吉岡久輝
 第4位 木安玲王奈

● 加藤賞

鷹島充寿：市民が望む調整池の親水公園化整備に関する研究
 青木秀史：水害常襲地帯における地域・建築と住民生活に関する研究
 秋本悠喜：教訓を後世に伝承する津波碑の保存整備に関する研究

● 海建優秀賞

本吉真梨：荒川・利根川流域における水屋・水塚の建築構法に関する調査研究
 大橋昌季：粟島における浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の水車性能に関する実験的研究

● 桜建賞

白坂 真：塵芥の灼塔一都市部における新しい清掃工場の提案
 原田耕成：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の加振実験
 木村和樹・長谷川伸一・葦成林：PC 構造の復元力特性に関する研究—その2

● 海建賞

下山航太：東京湾を対象にした生態系ネットワークに関する基礎的研究
 稲村綾人・堀内崇之・中村和広：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウムの除去に関する研究—ゼオライトの投入によるセシウムの除去性能
 三上康光：盤洲干潟縁辺部の地形と植生分布との関係

鈴木隆之：直列2角柱の流体力特性に関する3次元数値解析
 菊池諄光：夜間における効果的な津波避難誘導標識に関する研究
 宮沢信太郎：MASによる迂回交通を考慮した自動車津波避難シミュレーションに関する研究—浜松市舞阪地区におけるシミュレーション
 福島弘明：静岡県東部における大規模災害に対する自主防災組織の構築に関する研究—自主防災組織活動内容に着目して

● 桜工賞

坂東美乃利：オープンキャンパス等における学科紹介講演(学科貢献)
 並川菜央：卒業アルバム編集委員会 編集長
 出山 亮・井出 健・宇山浩和・戸田寛康・樋浦直己：一般社団法人みなと総研・横須賀市共催「よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ」(デザイン賞・受賞)

● 平成26年度理工学部学術講演会優秀発表賞(口頭発表部門)

青木秀史：水防建築の全国分布・立地及び形態的特性に関する研究—水害常襲地帯に付む水防建築に関する基礎的研究その1—
 清水 研：河川を含む水域を活用した災害時医療支援システムの提案—その3 医療浮体の適地選定および運用方法に関する検討

● 平成26年度理工学部学術講演会優秀発表賞(ポスター発表部門)

池上信太郎：津波シェルターの普及の可能性に関する研究
 佐俣良平：津波避難時において予想浸水区域内の線路が及ぼす影響に関する研究—太平洋沿岸部の自治体と鉄道会社を対象として—
 横山 巧：津波避難タワーの整備実態に関する研究—西日本沿岸の10県を対象として—
 渡邊祥太郎：海洋再生可能エネルギー発電施設と漁業者との関係に関する研究
 山下聡士：津波常襲地域岩手県・宮城県沿岸部における住宅立地の変遷—明治・昭和と三陸津波を対象として—
 小川千明：直列2円柱の流体力振動に関する3次元数値解析
 鈴木隆之：直列2角柱の流体力振動に関する数値解析
 田島沙織：エルセントロ地震動による円筒タンク内の液面解析
 山本 卓：PSV用浮体式拠点港におけるOWC型ダンパー効果に関する基礎的研究

学科イベントカレンダー

2015年			
4月6日(月)	新入生歓迎式典	8月4日(火)	海洋実習Ⅱ(2年生)~8月7日(金)まで
4月下旬	新入生学科オリエンテーション	8月下旬	海外研修旅行
5月上旬	学科留学生交流会	9月上旬	海洋実習Ⅰ(1年生)
5月23日(土)	理工学部スポーツ大会	10月30日(金)	学園祭(船橋校舎)~11月3日(火)まで
7月下旬	ポスター発表会(1年生)	12月5日(土)	理工学部学術講演会(駿河台校舎)
2016年			
1月中旬	博士論文発表会	3月初旬	卒業発表
2月上旬	卒業論文発表会	3月25日(金)	卒業式
2月下旬	修士論文発表会	-	-

計画分野

空間利用系

親水工学研究室

1345室

Teaching Staff

教授
畔柳 昭雄助手
菅原 遼

● 研究室紹介

本研究室では、「水と人とのかかわり」を基本テーマとして、水と建築、水と空間、水と場所、水と生活などについて考究することを目的としています。

そのため、「歩く・見る・考える・伝える」を重視し、建築を見て、都市を感じ、海を知り、地域を理解することからはじめます。また、素養を身に付けるための関連の文献紹介や研究解説などを行い、理解増進や興味・関心を深められるようにし、研究に求められる協調性や積極性、独創性及び思考力を養うためのワークショップも行います。調査研究の経験を通して、将来、社会において活躍できる人材の育成を行います。

UPL <http://kuro.ocean.cst.nihon-u.ac.jp/>

● 卒業研究のテーマ

[人間・活動・環境系]

- ・人と水辺空間との関係性の研究
- ・生活用水の利用行動と評価に関する研究
- ・アジア諸都市の水資源・水環境に関する研究
- ・水辺の社会実験に関する研究

[建築・都市・防災系]

- ・洪水常襲地域における建築と地域対応に関する研究
- ・時代や場所を考慮した親水施設の特長に関する研究
- ・都市化による流域の地域変化と対応に関する研究
- ・洪水・津波災害リスク対応と地域政策に関する研究
- ・建築が持つ「動的要因」に関する調査研究
- ・海の博物館の建築的研究
- ・客船ターミナルの調査研究

[デザイン系]

- ・浮体式海洋建築物のデザイン
- ・都市熱緩和のための新たな親水空間のデザイン

● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、CADやIllustratorの技術の習得をわかりやすく丁寧に指導し、同時にデザインビルドを5月から7月にお台場海浜公園や地方の海浜で行います。



● 着手条件

研究室説明会には必ず出席し、個別面談を受けてください（デザイン系を志望する学生は、設計製図で制作した作品を必ず持参してください）。希望者は、卒業研究着手や就職活動に支障のないように単位を履修していることのほか、2年次までの設計製図の単位を取得済であることを希望します。また、大学院進学希望についても、面談時にご相談ください。

● 卒業論文

海野智洋：河川管理における住民と行政とのかかわり方に関する調査研究—かわまちづくり支援制度を利用した河川事業を対象として

大川薫平：「災害時医療支援浮体」のための設置海域の選定

小松浩樹：河川利用に向けた地域連携の在り方に関する研究—大岡川下流域に整備されている接岸施設に着目して

佐久間大和：東日本大震災被災地域における漁業従事者の意識に関する研究—岩手県宮古市重茂地区を対象として

並川茉央：江戸・東京期における水辺と建築の係り方に関する研究—隅田川流域に立地する料亭を対象として

本吉真梨：荒川・利根川流域における水屋・水塚の建築構法に関する調査研究

山崎未来：醤油醸造業における河川との関係性および野田市街の変容に関する研究

山下聡士：津波常襲地域の高台移転地区における住宅立地の変遷に関する調査研究—岩手県釜石市唐丹町本郷を対象として

● 修士論文

青木寿史：洪水常襲地域における地域・建築と住民生活に関する研究

Teaching Staff

教授
桜井 慎一

● 研究室紹介

卒業するまでに、次の3つのスキルを身につけることを研究室のモットーにしています。

(1) 社会人として最も大切なのは時間を守ることです。3年でゼミに入って最初に学ぶのは「時間の管理」です。時間を目で見て把握し、主体的に時間を管理し、破綻のないスケジュールリングを計画・実践する技術を身につけます。(2) ゼミ論や卒研のテーマは、今、不満に感じていること、将来、必要になってくることを考え、学生自らが提案します。計画や企画の分野で就職を目指す人は、社会を観察し、「ニーズを掘り起こす能力」が必要だからです。(3) どんなに優れた研究でも、人に上手に伝えることができなければ価値を認めてもらえません。原稿を見ず、自分の言葉で、誰にでもわかるように、決められた時間の中で、興味を引きつけ飽きさせない「プレゼンテーション力」を養います。

● 卒業研究およびゼミナールのテーマ

(A) ウォーターフロントの環境創造・環境評価

- ① 常時滞水調整池の市民開放に関する研究
- ② ペット専用ビーチの整備と運営に関する研究
- ③ 水中文化財を対象としたダイビングスポット整備
- ④ 水辺環境に適合する屋上緑化手法の研究
- ⑤ ビーチクラブによる海岸利用・管理の研究

(B) ウォーターフロントの景観計画とデザイン

- ⑥ 水辺景観を向上させる保存船舶の展示方策
- ⑦ 海岸景観に調和する擬岩の適正利用
- ⑧ 水辺環境を活かすボードウォークの適正利用
- ⑨ 水辺景観を引き立たせる防護柵のデザイン
- ⑩ 消波ブロックの美的配置に関する研究

(C) ウォーターフロントの有効利用と空間整備

- ⑪ 朝市型路上店舗による沿岸地域活性化方策
- ⑫ 日本の海岸美を継承する灯台の保存・活用
- ⑬ ウォーターフロントの産業観光資源の発掘調査

(D) ウォーターフロントの減災対策

- ⑭ 津波避難誘導標識の効果的な設置方策
- ⑮ 海洋レクリエーションの津波避難対策
- ⑯ 津波避難タワー・避難シェルターの有効配置の研究
- ⑰ 津波記念碑の市民認知継承に関する研究
- ⑱ 船舶を用いた帰宅困難者輸送の研究

● ゼミナール活動

前期は、時間管理、情報収集、資格取得、進路就職などに関する座学、三番瀬や都心 WF の見学会を実施します。夏季休暇



2014年のゼミ旅行（吹き割りの滝）

以降、12月までの約半年間をかけて個別テーマによるゼミナール研究論文を作成する。成果は学術講演会で発表し、就職活動にも役立てます。

● 本年度の主な行事予定

- ① 新入室ゼミ生歓迎会（5月）、② 三番瀬体験散策会（6月）、③ ウォーターフロント見学会（7月）、④ 夏季研修旅行（9月）、⑤ 学術講演会での論文発表（12月）、⑥ ゼミナール研究論文発表会（12月）、⑦ 桜井研卒発表会&懇親会（2月）

● ゼミナールおよび卒業研究の着手条件

説明会参加者の中から個人面談によって決定します。ウォーターフロント計画、建築法規、都市計画等の科目を履修していることが望ましい。

● 博士論文

金田孝之：港湾再開発における公民共同の事業誘導手法に関する研究

● 修士論文

秋本悠喜：津波記念碑の効果的な保存整備方策
鷹島充寿：市民が支持する調整池の親水公園化整備
寺内将貴：海洋レクリエーションの津波避難対策

● 卒業論文

池上信太郎：津波避難シェルターの普及可能性
大畑孔明：魚市場の一般市民開放化の利点と課題
菊池諄光：夜間に有効な津波避難標識の設置方策
佐俣良平：津波避難の障害となる線路横断の改善策
畠山礼暉：スケートパークの水辺立地の優位性
畠山北斗：河岸道での自転車と歩行者の共存方策
横山 巧：東海地域での津波避難タワーの整備実態
吉原 亮：プライベートビーチを標榜する海浜の実態
渡邊祥太郎：海洋発電施設に対する漁業者の評価

● ゼミ論文

大津俊裕：文化財・美術品展示施設の津波防災対策
坂本真理：臨海工業地帯の工場夜景クルーズの特性
笹川泰佑：閉鎖性海域の海面・海底ゴミの清掃実態
高木祐輔：景観に配慮した水管橋のデザイン
高橋奎太郎：海浜条例の改正が海の家に及ぼす影響
田島実季：水辺景観に調和する擬木の適正利用方策
野口 翔：河川を遡上する津波からの避難対策
渡邊 亮：避難ハザードマップ表記の統一性と課題

Teaching Staff

専任講師
佐藤 信治

● 研究室紹介

本研究室は、建築のデザインに関わる様々な事象について、積極的に学習したい！という学生・院生で構成されています。まずは建築が好き！であることが大切です。建築の設計はある意味では大変な作業ですが、この大変なことを積極的に楽しめる人と一緒に学びたいと考えています。

また建築をデザイン・設計する前段階としては建築を計画するということも重要です。このため、研究室では、企画から実際に建築物を創造するまで（含、施工）の全過程に興味があり、意欲的な学生の入室を希望しています。将来の進路に関しては、デザイン事務所やゼネコン設計部への就職を積極的に支援し、設計部門への就職率は毎年 100% を維持しています。

● 卒業研究のテーマ

本研究室では、建築の創作過程における水環境との関わりを特に重視しており、これを専門の〈設計〉と〈計画〉の両分野から研究しています。従って卒業研究は最終的に設計テーマと計画テーマとに分かれて実施しますが、その過程では、今年度も計画と設計の両方について行う予定です。

〈設計テーマ〉

- ・水環境を活かした建築のデザイン
- ・3D プリンターによる新しい建築空間の創造

〈計画テーマ〉

- ・水族館に関する建築計画の研究
- ・水環境下における建築の空間デザインの研究
- ・社の空間解析に関する研究

〈インターンシップ〉

国内外の地方自治体、デザイン事務所と積極的に交流を図っています。近年は、夏期休暇を利用して東北各地の地方自治体と「まちづくりワークショップ」を開催しています。昨年は、かやぶき屋根の住宅が今でも数多く残っている秋田県羽後町において行いました。合宿期間中に自ら調べ、民家の再生方法や道の駅などをデザインし、最終的には町長はじめ町の役員の前で研究発表を行いました。

また、2011 年度より中国北京の中国建築科学研究院において、海外インターンシップを開催しており、中国国内の設計コンペに共同で応募するなど国際交流が進められています。

夏季研究室合宿での見学
(秋田県由利本荘市カダーレ)

●ゼミナールのテーマ

設計・計画の分野について、基礎力の養成を主眼に幅広く学習します。具体的には、各学年の課題設計、学生コンペ等の指導、建築作品に関する展示会や話題建築物の見学会などを随時行い、ゼミナールについては、学期末にその成果の発表会を実施します。

●着手条件

研究室の説明会に必ず出席し、個別面接を受けてください。設計を希望する者は2年次までの全ての設計作品を面接日に持参してください。ただし計画・研究分野の希望者はこの限りではありません。

●卒業設計

堤 昭文：故郷の星景・福岡県八女市星野村における村の保全計画の提案

井出 健：再生するまち・新たな社会復帰支援のかたち
亀田宏樹：晴海コクーン・ターミナル・東京五輪を活用した新しいウォーターフロントの提案

久保田礼菜：稠密都市の余白・放水路を利用した祈りの空間の提案

志萱侑太：まちからの遺言・人へのメッセージ

白坂 真：塵芥の灼塔・都市部における新しい清掃工場の提案

滝村菜香：水たまりを掬ぶ・都市における水と人の関わり方、
出山 亮：再起の湯・次世代型エネルギー施設による木密更新の提案

樋浦直紀：水濠の記憶・東京高速道路京橋区間における歴史啓発施設の提案

藤本幸汰：波ほどく三陸の都市・防波堤の変換、海と暮らし続けるための提案

山影悠時：人と家の間、コミュニティと防災の間・北区志茂における木密新規計画の提案

戸田寛康：杜の空間構成に関する研究 その7・神社の水上鳥居とその参道空間について

●修士設計

涌井 匠：浮体式海上農場の設計 一複合利用を想定した研究開発型の植物工場の提案一



研究室で行った奈良県のコンペ（優秀賞受賞）

Teaching Staff

専任講師
山本 和清特任教授
近藤 健雄

● 研究室紹介

本研究室は、沿岸域を対象にした地域計画及び地域活性化計画を研究分野とした研究室です。社会の動向により日々変化を続ける沿岸域において、常に新しい視点でまちづくりを考え、安全・安心・快適な都市空間の創出や社会システムの向上を目指して研究を進めています。

また、本研究室ではOJT（On the Job Training）に重きを置いて研究を進めています。OJTとは「実地の経験を通して知識や技能を身につけさせる教育方法」のことです。本研究室の研究テーマでも「まちづくりにおける社会福祉のあり方」について考究しているため、「アクセスディンギー」という誰もが（小さい子供から高齢者・障がい者までも含む）海の快適性を享受できる小型ヨットの普及活動により、高齢者・障がい者を含む市民との触れ合いを経験することで、研究に必要な考え方や見識を身につけています。具体的には以下の活動を行っています。



アクセスディンギー体験乗船風景

「たてやま海まちフェスタ」（千葉県館山市において毎年7月に開催されている、海をまちづくりの中心に位置づけた南房総地区における大々的なイベント）、「東京夢の島マリーナフェスティバル」「浦安マリーナフェスティバル」（毎年9月に開催される両マリーナの一大イベント）、「船橋港まつり」（毎年10月に船橋漁協や船橋観光協会、様々な海関係のNPOや水産関係の地元企業が中心となって、船橋漁港で行われる市民まつり）では、それぞれの会場の海域を使用してアクセスディンギーの体験乗船会を実施し、研究室の学生自らが乗船時の介助者となり、体験乗船会に訪れた市民との交流を深めています。このような活動を通して地域市民と触れ合い、海の自然や沿岸域の市町村に存在する海の魅力的な資源を発見していくことにより、本研究室の研究テーマとしている地域活性化方策や高齢者・障が

い者にも優しいまちづくりについて、実体験として学べるのも本研究室の大きな特徴と言えます。

● 卒業研究のテーマ

【地域・都市活性化計画系】

- 1) みなと町活性化方策と“環境・観光・学習”港湾計画
- 2) 防災船着場の有効活用を目指した手法論の検討
- 3) 漁港における観光利用の推進方策
- 4) 体験観光による地方都市の活性化方策
- 5) 海洋リゾートにおける観光資源の有効利用方策

【福祉のまちづくり計画系】

- 1) 高齢者・障がい者と海のUD計画
- 2) 高齢者・障がい者の災害時避難計画

【海洋プロジェクト系】

- 1) 海の情報戦略と港湾空間における“Regeneration（再生・復興・復活・改革）”
- 2) Something New Project

●ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは、卒業研究において必須のPCスキルを身に付けると同時に、宅建資格取得講習会や就職対策としての面接指導、自分の考えを解りやすく相手に伝えるプレゼンテーション能力の向上を目指した課題に取り組んでもらいます。

●着手条件

特に無し。研究室訪問時に、熱意を持って自己アピールしてください。

●卒業論文

- 宇山浩和：マリーナを取巻く諸問題とその活性化方策に関する調査研究
- 大久保雄矢：海洋深層水による地域の経済的貢献度に関する調査研究
- 鈴木翔馬：京浜港湾区域に立地する企業のBCP策定に関する意識調査
- 平田龍乃介：江東内部河川における舟運利用向上に関する調査研究
- 福島弘明：静岡県東部における大規模災害に対する自主防災組織の構築に関する研究
- 伏谷洋俊：沿岸部における巨大防潮堤に対する住民意識に関する研究
- 増田顕弘：千葉東沿岸における公衆の適正な利用に関する調査研究
- 元木優甫：千葉港湾に立地する企業のBCP策定に関する意識調査
- 溝口 尚：海洋深層水開発による地域住民所得と税収からみた経済的波及効果に関する研究
- 津田慎一郎：首都直下型地震に向けたマリーナの減災対策と災害支援マリーナ登録制度に関する研究
- 阿部紘樹：総合的な学習の時間における防災教育に関する調査研究
- 仁平広志：海浜空間における利便施設の分布と機能に関する調査研究
- 田久保匡：地域の特性を活かした海洋教育の促進に関する研究

構造分野

空間利用系

構造工学研究室

1361室・1362室

Teaching Staff

准教授
北嶋 圭二特任教授
中西 三和

●研究室紹介

構造力学、構造設計、建築防災に関連する下記に示す研究が主要テーマであり、上記スタッフの指導を受けることができる。

1. 鉄筋コンクリート (RC) 造建物の耐震性能に関する研究

- ・ 損傷低減のための耐震設計法並びに補強技術の開発
- ・ 衝撃荷重を受ける RC 部材の挙動に関する研究
- ・ 高強度 CFT の構造性能に関する研究
- ・ 長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の構造性能に関する研究

2. 合理的な耐震構造システムに関する研究・開発

- ・ 次世代制震構造システムに関する研究・開発
- ・ 滑り基礎構造システムに関する研究
- ・ 折返しブレースを用いた構造システムに関する研究
- ・ 制震補強建物の性能評価・表示法に関する研究
- ・ ハニカム構造や薄鋼板構造に関する研究

3. 海洋建築物の構造設計法に関する研究

- ・ 津波漂流物の衝突に関わる研究
- ・ 海洋建築物設計指針策定に関わる調査・研究
- ・ 氷海構造物の応答性状に関する研究

4. その他、企業からの委託研究など

当研究室での研究の特徴は、大型構造物試験センターのテストフロアや二軸振動台、環境・防災都市共同研究センターの最新設備を用いた建築構造システム並びに建築構造部材の性能に関する実験的研究が多いこと。また、建築物の弾塑性地震応答解析などコンピューターシミュレーション技術を用いた解析的研究が多いことである。テクノブレース 15 に設置されている低温実験室の模型氷海水槽を用いた実験等も行っている。建築構造工学に軸足を置き、海洋構造物ほか、幅広い分野を対象に研究を行っている。

●卒業研究のテーマ

上記主要研究テーマをベースに、卒研生の意向を聞いて卒研テーマを設定する。

●ゼミナールのテーマ

自由課題：建築構造物・海洋構造物の小型模型実験
前期は基礎的な力学の勉強会を行う。また、海洋構造物や陸上の建築構造物に対して興味や疑問に思っていることを確かめるための小型模型実験を行う。実験は学部祭にて公開する。

●着手条件

特になし。

●卒業論文

荒木田祥平・岡本亘・斎藤純毅・園川忠孝・塚原寛之：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の十字形接合

部を対象とした多数回繰返し荷重実験

遠藤輝宏・須藤功也：間柱型レンズダンパーの構造性能に関する実験的研究

大崎洸・山崎佑記・山田・道也・渡邊泰介：継ぎ手を有するあと施工せん断補強筋を施した RC 造梁のせん断補強効果に関する研究

原田耕成：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造建物の加振実験
福島昌樹・渡邊正一：竹筋コンクリート梁に関する実験的研究
松田壮太・森永晃平：実大折返しブレースの構造性能に関する実験的研究

柳田颯太郎・山口大貴・浅川景太：津波漂流物の衝突を想定した構造部材の挙動に関する実験的研究

斎藤大樹：断面形状が異なる CFT 柱の圧縮性能に関する解析的研究

●修士論文

天羽翔太：制震補強建物の保有減衰性能評価法および補強設計法に関する研究

伊藤 渚：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建物の柱梁接合部の構造性能に関する実験的研究

坂東美乃利：高強度長方形断面 CFT 柱の構造性能に関する研究

●博士論文

古谷 章：多数回繰返し荷重を受ける超高層 RC 造建築物の最下層柱の構造性能に関する研究



大型構造物試験センターで実施した PC ハニカム構造の実験



低温実験室における氷海構造物の実験

Teaching Staff

教授
近藤 典夫

● 研究室紹介

当研究室は、大スパン構造物や海洋構造物の周辺あるいは都市空間において流体（風、海流、波など）がどのように流れているのか、そして構造物および人間にどのような影響を与えているのかなどを、コンピュータ・シミュレーションの手法を使って研究活動を行っています。研究範囲は地上・海洋空間を問わず、あらゆる空間および興味あるものなら何もかも研究対象に加えていきます。

研究室の活動は、夏合宿、ゼミナール・卒業研究発表会、懇親会などを行い、楽しい一年間を過ごします。



ゼミ・卒研発表会の風景（軽井沢研修所）

● 卒業研究のテーマ

卒業研究テーマは以下の通りです。他に希望するテーマでも卒業研究を行うことができます。

[1] 流体運動

- 1) 構造物まわりの気流の数値的研究
- 2) 構造物の内部を流れる気流の数値的研究
- 3) 乱流の数値的研究
- 4) 大型海洋構造物まわりの海流と波の数値的研究
- 5) 大型貯蔵タンク内のスロッシングの数値的研究
- 6) 都市のヒートアイランドの数値的研究
- 7) 津波の遡上に関する数値的研究

[2] 構造物の不安定振動

- 1) 風力を受けた構造物の渦励振の数値的研究
- 2) 海洋構造物の渦励振の数値的研究

- 3) 大型浮体構造物の波浪応答に関する数値的研究

[3] シェル構造解析

- 1) シェル構造物の動的・静的解析
- 2) シェル・空間構造物の減衰特性

● ゼミナールのテーマ

ゼミナールは卒業研究のための基礎的な事項についての学習とその応用演習を行い、研究に必要な知識を習得します。内容としては以下の事を予定しています。

- 1) 数値流体力学と弾性力学の全般的な基礎学習
- 2) 有限要素法
- 3) コンピュータ・シミュレーションの仕方
- 4) フォートラン・プログラミング
- 5) 画像処理の方法（アニメーションの作り方）

● 着手条件

特に設けていませんが、説明会には必ず出席をして下さい。やる気のある学生、大いに歓迎です。

● 卒業論文

王 健：浮体構造物まわりの流れと流体力特性に関する3次元数値計算

小川千明：直列2円柱の流力振動に関する3次元数値解析

田上聖也：超臨海域における円柱まわりの流れのLES解析

田島沙織：地震動による円筒タンク内の液面動揺解析

鴫崎大樹：正方形角柱まわりの流れ性状と流体力に関する3次元数値計算

橋本孝太：鉄骨HPシェルの減衰定数評価

鈴木隆之：直列2角柱の流体力特性に関する3次元数値解析

原田卓弥：辺長比が大きい角柱構造物の流体力特性に関する3次元数値シミュレーション

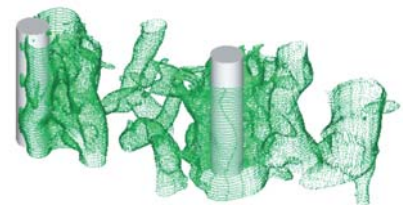
福富まや：都市のヒートアイランドに関する3次元数値計算

● 修士論文

神田恒平：くい違い配置2円柱まわりの流れ特性と流力振動に関する3次元数値シミュレーション

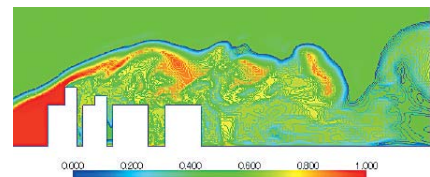
竹下大地：高レイノルズ数流れによる円柱の流体力特性と流力振動に関する3次元数値シミュレーション

海流



卒業研究より：振動している2円柱まわりの流れ（圧力等値面）

風



卒業研究より：建物群まわりの温度分布（地面が太陽光で温められている。赤色：温度が高い領域、青色：温度が低い領域）

構造分野

空間利用系

コンクリート構造工学研究室

1366 室

Teaching Staff

教授
浜原 正行准教授
福井 剛

●研究室紹介

研究のこと：私たちの研究室ではプレストレストコンクリート構造を対象に、その力学的性状の解明と設計法の確立を目指し研究を進めています。私たちの研究室での合言葉は、「世の中に直接役立つ研究をする！」です。これをもうちょっと具体的にいうと、「その成果が設計や開発および研究の場で広く用いられるような研究をする！」ということです。そして、そのためには、独創性が高いだけでなく構造設計者、研究者が使ってみたくなるようなシンプルで信頼性の高い研究成果を生み出す必要があり、私たちがやってきた研究はこの要求をある程度満たしているのではないかと内心密かに自負しています。

研究室の雰囲気：堅い話になってしまいましたが、私たちは、研究を円滑に進めるためにはリラックスした雰囲気が不可欠であると考えており、研究室を教員とゼミ生、卒研生、院生がお互いにフランクに話し合えるような場にしたいと考えています。

年間行事：以下のような行事を予定しています。

顔合わせ会：所属が決まったゼミ生が卒研生、院生、教員親睦を深めるために5月初旬に実施します。

八海山または軽井沢研修会での研究発表会：ゼミ生が卒研生、院生が行っている研究を発表するために9月初旬に行います。発表終了後は無礼講のリラックスタイムとなります。

実験の打ち上げ：実験が終了したとき、これを祝うための行事です。その他、めでたいことなどがあれば適宜リラックスタイムを設けることにしています。

●卒業研究のテーマ

- 1) 異形 PC 鋼棒を用いたプレキャストプレストレストコンクリート部材のせん断性状に関する研究
- 2) プレストレストコンクリート圧着継目の滑り性状に関する研究
- 3) プレストレストコンクリート有孔梁の合理的な設計法の開発
- 4) プレストレストコンクリート骨組の柱・梁接合部の応力伝達モデルの開発
- 5) プレストレストコンクリート骨組の耐震設計法に関する研究
- 6) プレストレストコンクリート構法を用いた津波避難ビルと高層集合住宅の開発

卒業研究のテーマの内、1)、2) は実験を主体としており、フィールドワークが好きな人に向いています。3)～6) は解析が主となるので、コンピュータ好きの人に向いていると思います。ただ、ゼミに入って色々やっているうちに解析大好き人間に変身するケースも稀ではないので、君たちは自分自身にあまり先入観を持たないほうがいいのかもしれない。

研究テーマだけを見ていると面白みはあまり感じられないかも知れませんが、君たちが、実際にこれらのテーマに取り組んでみればはまること請け合いです。



●ゼミナールのテーマ

- 1) マトリクス法による任意形骨組の解析ソフトの開発
- 2) 一級建築士に出題されている構造系科目を解く
- 3) 卒業研究時に必要なコンピュータスキル (CAD、エクセル、パワーポイント) の修得

テーマ1)、テーマ2) は、それぞれ週1回私たち教員が担当し、テーマ3) は週2回大学院生が担当しています。ゼミの開催曜日と時間は、ゼミ生、教員、大学院生の都合が折り合うところ設置しています。ゼミ生はこれらのテーマから少なくとも二つ選択してもらうことになります。

3年次には君たちが受講しなければならない大切な専門科目が目いっぱいあるので、ゼミ生には、そちらにも十分な時間が割けるようできるだけ配慮したいと思っています。

●着手条件

特に設けていません。構造力学、応用力学の知識はゼロであることを前提とした指導を行いたいと考えています。(ただ、極めて稀ではありますが、2年を修了した時点で構造力学、応用力学をちゃんと理解している学生もいます。このような学生には別途対応したいと思います。) 私たちの研究室では、成績最悪の学生がゼミや卒研をやっているうちに研究に目覚め大変身を遂げた例が結構ありました。私たちとしては、君たちにもぜひそうなってほしいのです。

●卒業論文

- 木村翔一、木安玲王奈、関根光希、中西匠：異形 PC 鋼棒を用いた PCaPC 柱梁部材のせん断終局強度に関する研究 (その1～その3)
- 木村和樹、長谷川伸一、比成林：PC 構造の復元力特性に関する研究 (その1、その2)
- 小田隼人、木村昂平、望月太雅：PC 造 L 型柱梁接合部の応力伝達機構に関する解析的研究
- 金川尚政、久保田颯、後藤翔太、永沢僚平：PCaPC 柱の圧着継目滑り耐力に関する研究 (その1、その2)

海洋空間利用工学研究室

1341室・1342室

Teaching Staff

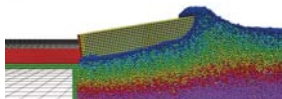
教授
増田 光一教授
居駒 知樹准教授
恵藤 浩朗

● 研究室紹介

<津波・防災> (増田光一)

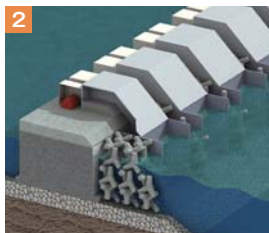
東日本大震災により津波防災の重要性が改めて認識された。当研究室では主に東海地震を対象に10年以上の時間をかけて浮体構造物と津波、遡上津波による浮体応答、建築物への衝突荷重を研究してきた。これらのノウハウをさらに活かして今後の巨大津波に備える研究を継続している。

1



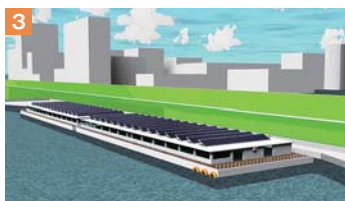
<海洋再生可能エネルギー利用> (居駒知樹) 海洋エネルギーを利用するために海洋建築物の流体力学的性能評価を行い、波力・潮流・浮体式洋上風力施設の研究・開発を実施している。そのための理論・数値解析方法、計算プログラムの開発を行うとともに発電装置の水槽実験・実海域実験にも取り組み、物理的な現象の把握と設計への応用を考察する。

2



<浮体式建築物の構造計画・構造設計> (恵藤浩朗) 浮体を活用した様々なアイデアが公表されているが、それらはなかなか実現に結びついていない。そこで浮体に関する様々な研究成果と海事産業をシームレスに繋ぐため、その提案の実現方法や必要技術課題、問題解決案を提示することにより、我が国の海事産業の発展に寄与する“海洋建築構造計画”の研究に取り組む。

3



- 1 津波時浮体応答シミュレーション
- 2 潮流発電装置(左)と波力発電装置(右)の実海域実験
- 3 災害時医療支援浮体イメージ

● 卒業研究のテーマ

上述の研究室紹介に記載した大きな3つのテーマに関する卒業研究を各自の希望に基づき選択し実施する。

● ゼミナールのテーマ

週1回の講義、演習形式ゼミナールがメインの活動です。また実際に水槽実験の補助をすることで海洋建築物・構造物の動揺問題や津波防災、海洋エネルギー開発の現場に触れることができます。講義ではプログラミングを一から勉強すると共に、簡単な水波の理論について学びます。

● 着手条件

「海洋建築」への情熱や気力、体力のある学生を重視します。また大学院への進学希望者を歓迎します。津波防災や海洋再生可能エネルギー利用・開発、浮体式建築物の新たな活用方法などに興味がある学生は是非、研究室へ相談に来て下さい。なお、ゼミ着手希望者は随時研究室で説明を実施しますので必ず面接を受けて下さい。

● 卒業論文

- 谷口幸之輔、中島麻悠美：透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の基本計画
- 五十嵐啓祐：防潮堤を越流する津波の特性把握へのMPS法の適用性に関する基礎的研究
- 太田 良：ムーンプールを有するボンツーン型浮体の流体力特性に関する基礎的研究
- 大橋昌季：粟島における浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の水車性能に関する実験的研究
- 小口篤大：OWC型波力発電装置におけるノズル影響に関する研究
- 岸田智之、鈴木航太：大型石炭貯蔵浮体の重量変化にともなう波浪応答解析
- 木村健太郎：ばら積み船の振動水柱型波浪発電システムへの転用に関する基礎的研究
- 鈴木稜介：時刻歴行動シミュレーションを用いた沿岸域の津波被害評価に関する基礎的研究 防波堤の有無による津波被害特性に関する検討
- 多津田紗季：浮体式垂直軸水車の波浪中応答特性に関する実験的研究
- 本下知輝：津波漂流物の衝突力に関する実験的研究
- 三船 亮：港湾内の作業船の津波応答シミュレーションに関する基礎的研究 東京湾の作業船溜りの津波被害評価に関する検討
- 山中大河：荒川を利用した首都直下地震時の傷病者搬送に関する基礎的研究
- 山本 卓：PSV用浮体式拠点港の試設計および応答性能評価
- 吉岡久輝：ボンツーン型浮体のドルフィン係留とチェーンカテナリー係留の初期計画に関する研究

● 博士論文

- 相田康洋：津波漂流物と構造物の衝突問題におけるMPS法の応用に関する基礎的研究

Teaching Staff

准教授
大塚 文和

● 研究室紹介

私たちの研究室では、海洋環境について自分たちで色々な角度から観測し、海洋環境の実態を理解することから始めます。そして、単に自分たちが理解するだけではなく、自分たちの成果をより社会に役立たせるため、観測結果を基に様々な解析をするとともに、水域環境の詳細な解明や環境変化の将来予測のための数値シミュレーション技術の開発にも取り組んでいます。

私たちの研究室では、『楽しく研究、笑顔で卒業！』を合い言葉にしています。学生諸君には“海”に楽しくかわる気持ちを忘れず、楽しく海洋環境を研究し、それを社会で役立てて欲しいと望んでいます。



昨年調査したアラスカ氷河



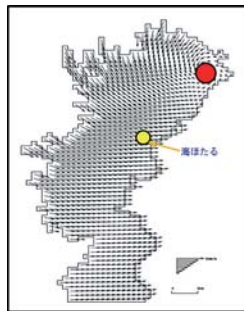
研究室合宿

● 卒業研究のテーマ

卒業研究では、来年度の主なテーマとして次のようなことを予定しています。

- ① 荒天時における環境変動の解析と予測
- ② 放射性物質の実態解析と拡散予測
- ③ 生態系ネットワークの解析
- ④ 海流発電に関わる流況予測

上記①では、東京湾付近を台風が通過した場合の海上風と東京湾の流れや水質等を数値モデルを用いてシミュレーションし、東京湾で常態化している貧



風況シミュレーション例

酸素水塊の荒天時における変化を解析します。

②では、東日本大震災に伴って発生した福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質が、東京湾にどのように入ってきているのかを観測データを用いて解析し、将来における流入量を予測します。また、三番瀬及び葛西臨海公園海浜を対象に、干潮時に干潟に行って放射線量の現地調査を行い、親水域における放射性物質の実態を明らかにします。

③では、まだまだ解明されていない東京湾の生態系ネットワークの一つであるアサリのネットワークについて研究します。また、幼生の遊泳行動の数値モデルを開発し、東京湾におけるアサリネットワークの実態を解析します。

④については、増田・居駒・恵藤研と協働して海洋再生可能エネルギー実証フィールドにおける流況を予測します。

● セミナールのテーマ

ゼミナールでは、「海洋環境を知る」をテーマに、実際に干潟に行ってアサリ稚貝の採取や放射線量の計

測を行ったり、船に乗って東京湾を海上から調査したりします。また、ラジコンヘリを用いたりリモートセンシングも試行したいと考えています。

● 着手条件

個人面談を行って決定しますが、大学に来るのが好きな方を望みます。環境関係の科目をあまり履修していなくとも構いません。特に、海が好きなお方、あるいは“環境”に興味のある方は、歓迎です。

● 卒業論文

下山航大：東京湾を対象にした生態系ネットワークに関する基礎的研究

黒澤 魁：荒天時における東京湾海上風の推定に関する基礎的研究

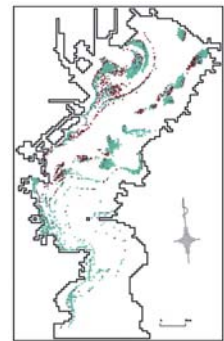
藤井瑠行：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量実態解析について

篠原裕希：三番瀬における放射線量の実態解析について

江原一晃：江戸川から東京湾に流入する放射性物質量の推定



干潟での放射線量観測



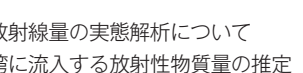
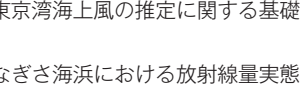
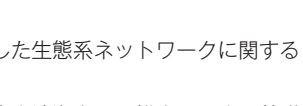
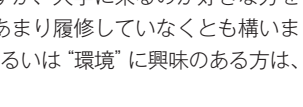
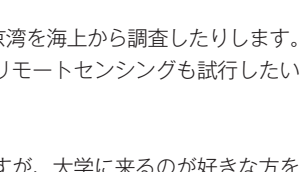
アサリ幼生浮遊シミュレーション例



アサリ ーわくわく調査



ラジコン空撮システム



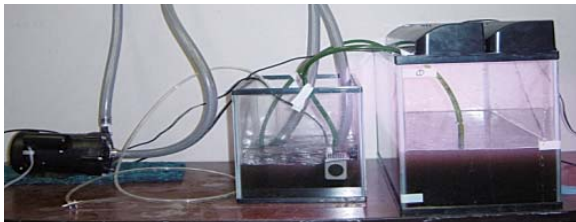
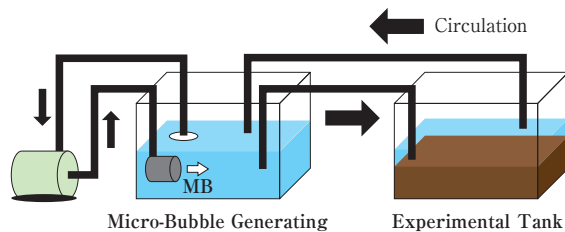
Teaching Staff

准教授
岡本 強一

● 研究室紹介

本研究室は環境工学に関する調査研究と技術開発を行っています。研究は主に「環境再生」をめざし、生態システムの再生、整備に関する実証実験、環境シミュレーション、モニタリング調査を通じ、沿岸域・海域における豊かで快適な居住環境の実現のための技術開発と研究を行っています。

特に、生物生息環境の改善・修復・創出をするためには、環境工学技術によって人間活動の影響をなくすのではなく、生態系と共生することが重要であり、人間や生態系をシステム全体として取り扱おうとする「生態システム工学」を念頭に、海の「環境再生」を目標にします、また特に、水質浄化について研究しています。



循環型浄化システム

● 卒業研究のテーマ

1. 「実験的手法に基づく環境再生（水質浄化）」

- ・マイクロバブルと微生物による水質浄化（循環型浄化システムを用いた水質浄化）
- 沿岸域の堆積汚泥に対する浄化
- セシウムに汚染された沿岸域の堆積汚泥の浄化
- ・凝集剤を用いた水質浄化
- ・電気分解の原理を用いた水質浄化（東京大学生産技術研究所・北澤准教授と共同研究）



夏合宿

2. 「理論的アプローチによる環境再生」

- ・ Ecological Footprint 指標を用いた環境影響評価法

3. 「環境再生のための環境モニタリング」

- ・ 海洋環境モニタリングシステムの開発
- その他、学生からの新しいテーマの提案も大歓迎です。

● ゼミナールのテーマ

ゼミナールは、勉強会による基礎知識の習得を通して、具体的な卒業研究のテーマの選定を行います。

最終的にゼミ論をまとめてもらいますが、失敗を恐れず、挑戦的なテーマで実験を主体に行っています。これを通して現象の理解を深め、かつ、測定方法の習得をしています。以下が最近のゼミ実験です。

- ・ 実海域での堆積汚泥の浄化システム
 - ・ 循環型浄化システムにおける酵素の配合比率
 - ・ 微生物と凝集剤を用いた新しい浄化システム など
- なお、ゼミの出席は重視しています。

● 着手条件

研究室説明会に出席して、必ず個人面談を受けて下さい。やる気のある人を優先します。

● 卒業論文

- 稲村綾人、堀内嵩之、中村和広、坂間一貴：循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウムの除去
- 天野雅康：ナノバブルを用いた循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化実験
- 川村裕幸、小林優太郎、助友俊文、田口雅章：鉛直流方式による循環型浄化システムを用いた堆積汚泥の浄化実験
- 平塚幹大：炭素電極を用いた電気分解による水質浄化実験

● 修士論文

- 曾根孝亮：循環型浄化システムを用いた微生物の投与による堆積汚泥の浄化実験－微生物活性によって特定された微生物を用いた場合－
- 山下和浩：循環型浄化システムにおける鉛直流を考慮した堆積汚泥の浄化実験－微生物活性剤としての酵素配合比率による浄化性能－

Teaching Staff

教授
小林 昭男助教
野志 保仁

● 研究室紹介

本研究室の海洋建築工学科における位置付けは、「海洋環境工学系の研究室」です。海洋建築物に必要な良質な海洋空間の整備・創造や海洋空間の高度な利用方法に関わる技術を総合的に研究し、成果を実際のプロジェクトに反映できるように整備しています。さらに、(財)土木研究センターと(独)水産総合研究センターから客員教授を招聘し、企業からも上席客員研究員を招聘して、研究のレベル向上にも努めています。



現地調査の様子（ベトナム）

● 卒業研究のテーマ

卒業研究の主題は次の通りです。春に現地踏査を行い、これらの主題に沿った海浜を対象にして研究を行います。研究の成果は、必ず社会全体に役立ちます。



海岸環境の修復活動（福井県水島）

1. 良質な海洋建築空間の整備・創造

- 1) 海岸侵食の現況調査と原因究明および対策立案
- 2) 侵食された海浜の新しい修復技術の開発

2. 良好な海洋空間の利用方法

- 1) 海浜の過度な土地利用の弊害
- 2) 侵食対策によって創造された海浜の変遷

● ゼミナールのテーマ

就活・進学に役立つ建築や海洋の基礎を復習します。

- 1) 科学技術英語の基礎を学びます
- 2) 研究に役立つ参考書を共に学びます
- 3) 既往研究の解説を聞いて研究の方法を学びます
- 4) データの分析方法やレポートの書き方を学びます
- 5) 興味があれば模型実験や数値計算法も学びます
- 6) 海岸の状況を体験的に学ぶ踏査や調査にも参加できます
- 7) 海岸保全施設の機能が理解できるようになります
- 8) 研究室員全員で行う千葉県沿岸での合宿で、現地調査の方法、海岸の環境問題を学びます
- 9) 懇親の場で先輩たちと楽しく食べて飲んで学ぶ場も提供しています



海外の学生たちとの交流

● 着手条件

2014年度の卒研生・ゼミ生には、私たちの研究を推進させる人材なると期待しています。海岸地形や海浜環境の再生・修復に興味のある学生なら、だれでもゼミナールや卒研に着手できます。

● 卒業論文

- 五十嵐健太：礫養浜後の神向寺海岸の季節変動に関する調査
江藤宏一：那古船形海岸における突堤の汀線への影響
関寺将司：波崎海岸における砂浜幅と海岸林の外沿線の後退距離の関係
東原浩志：干潟縁辺における海浜変形の現地実測
藤間タイカ：東北地方太平洋沖地震時の地盤沈下の影響を受けた濁沼親沢鼻の近年の変形
三上康光：盤洲干潟における地形特性と植生分布の関係
石井優太：平砂浦海岸における人為的改変による海岸侵食の実態

● 修士論文

- 本島真也：前浜への粗粒材投入による海浜縦断地形の変化

Teaching Staff

教授
登川 幸生

● 研究室紹介

本研究室では、海洋建築分野において、コンピュータやネットワークを利用したデジタル情報システムに関する研究を展開しています。

誰でもがコンピュータや携帯電話を利用するようになり、それらがネットワークで接続されて、有益な情報を手軽に利用できる社会基盤が整ってきました。これらはすべて、文字、写真、動画などの情報がデジタル化されたことにより実現しています。このような情報社会では、インターネット上や個人、組織の中に膨大なデータが蓄積され続けていますが、どのように処理をすれば新しい知見が得られるのか、まだ解っていません。普段、我々が何気なく使っている情報システムが、どのような技術によって実現しているのかを知れば、そこから新たに便利なシステムを作り上げたり、活用することができます。

現在、海洋分野や建築分野で、情報を適正に扱い、有効に活用できる技術者が求められています。本研究室では、これらのデータの生成、蓄積に寄与するとともに、これらのデータから海洋建築分野における新しい知見を得るための情報処理技術者を育成しています。

● 卒業研究のテーマ

現在、研究室で着手している次のような研究テーマは、デジタル情報技術を応用したものです。

・自動車による避難のシミュレーションに関する研究

→コンピュータ内の仮想空間に地形や道路情報を作り、避難時の自動車の動きを再現して災害時の避難計画に役立ちます。

・画像処理技術を用いた海岸汚染調査手法の研究

→海浜の画像から海ゴミなどの海浜環境を汚染する物質を自動的に検出して汚染傾向を把握することにより、海浜環境の保全に役立ちます。

・データベースを活用した海洋情報活用に関する研究

→ネットワークや研究施設等に保存されているデジタルデータと空間情報から、新たな知見を得る基礎データとして役立ちます。

● ゼミナールのテーマ

ゼミナールでは卒業研究課題を幅広く選択し、深く研究できるような基礎学力の修得を目標としています。

- ・まずは、コンピュータに慣れてデジタル的な発想ができることが大切です。身の回りのいろいろな情報をデジタル化する方法、それをコンピュータで処理する技術を学びます。
- ・また、収集したいろいろなデータに潜んでいる本質を見つけるための統計解析や、データを有益に活用するためのデータベース技術、空間情報の解析や可視化のための情報処理技術など、いろいろなアプリケーションを体験します。

● 着手条件

取得単位数・科目等に細かい条件はありませんが、研究室説明会には必ず出席し、教員や大学院生と良く面談して研究室の活動内容を理解してください。また、情報分野に強い興味を持った学生を希望します。これまでのコンピュータに対する知識は問いません。協調性があり、「なぜだろう」と思ったらそれを調べる探究心があり、かなり「粘り強い」性格の学生を望みます。

● 卒業論文

土岐昌生：津波襲来時の避難行動における意思決定モデルについての研究

木村直道：避難所収容人数を考慮した歩行者避難に関する研究－静岡県浜松市西区舞阪町を対象として

平野達大：低地沿岸住宅密集地域における津波襲来時の自動車シミュレーションの研究－浜松市舞阪地区における自動車シミュレーション－

鈴木貴博：MASによる迂回交通を考慮した自動車シミュレーションに関する研究－迂回交通のアルゴリズム－

宮沢信太郎：MASによる迂回交通を考慮した自動車津波避難シミュレーションに関する研究－浜松市舞阪地区におけるシミュレーション

青松祐亮：QGISを利用した避難シミュレーションの一元化の提案－Time Managerプラグインの活用

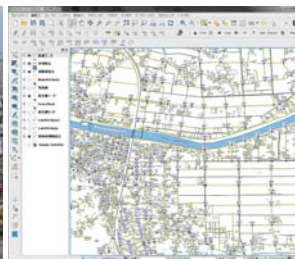
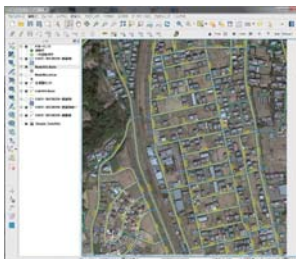
小室雅由：海洋空間情報データの集積とアーカイブ作成の現状

高田稜斗：海岸漂着ゴミを対象とした画像処理技術による簡易的評価手法の提案

● 修士論文

小林尚史：プラスチック由来の化学物質による沿岸域汚染に関する研究

望月宏樹：災害を想定した統合避難シミュレーションシステムの開発



畔柳・菅原研究室

審査付論文

- ◆田中雄基・小川雅人・畔柳昭雄：敷地と建物の平面形から捉えた津波避難ビルに見られる避難経路の特徴－地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的な研究 その1－, 日本建築学会計画系論文集, vol79, 703, 2014.9, pp.2101-2108
- ◆小川雅人・坪井望太郎・畔柳昭雄：津波避難ビルの建築的特徴と地域的傾向に関する研究－南海トラフ巨大地震に伴う被害想定地域を対象として－, 日本建築学会計画系論文集, vol80, 707, 2015.1, pp.221-230
- ◆小川雅人・坪井望太郎・畔柳昭雄：静岡県沼津市における津波避難ビルの立地分析, 日本沿岸学会誌論文, 第27巻, 第3号, 2014.12, pp.29-40
- ◆菅原遼・坪井望太郎・畔柳昭雄：運河リネサンス事業における運河の利用実態に関する調査研究, 環境情報科学学術論文集28, 2014.12, pp.413-418

口頭発表・ポスター発表

- ◆坪井望太郎・中林一樹・小田切利栄・土屋依子：東日本大震災における被災者の支援・要望に関する研究－2012年調査・自由回答記述のテキストマイニング分析－地域安全学会, 2014.11
- ◆小田切利栄・中林一樹・土屋依子・坪井望太郎：自由回答テキスト分析から把握する東日本大震災津波被災者の2014年2月調査における主観的復興感, 地域安全学会, 2014.11
- ◆坪井望太郎：中国における社会・環境・経済動向の可視化に関する研究－GISを用いた省・地級市・経済区による地域分析－, 環境情報科学センター, 2014.12
- ◆坪井望太郎：中国・北京経済圏における南水北調の導水効果に関する研究, 東京大学空間情報科学研究センター CSIS-DAYS, 2014.12
- ◆青木秀史・畔柳昭雄「組み木-KUMIKI」の茶室, 2014年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会 建築デザイン, 2014.9, pp.286-287
- ◆兎原貴之・畔柳昭雄・坪井望太郎：居住施設にみられる地下浸水被害の実態に関する研究－東京都都区部を対象として－, 日本建築学会(近畿)学術講演会 都市計画, 2014.9, pp.667-668
- ◆YANG Yuan Yuan・KUROYANAGI Akio・TSUBOI Sotaro: Optimal Operation Chart of Cascade Reservoirs on Upstream of Yellow River-Ice Prevention Considered, 日本建築学会(近畿)学術講演会 環境工学I, 2014.8, pp.1053-1054
- ◆坪井望太郎・中林一樹・小田切利栄・土屋依子：東日本大震災における被災者の高齢者支援要望－2012年調査・自由回答記述の構造分析－日本地理学会(国士館大学), 2014.3
- ◆青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：水防建築の全国分布・立地及び形態的特性に関する研究－水害常襲地帯に付む水防建築に関する基礎的研究 その1－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆本吉真梨・青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：荒川・利根川流域における水塚・水塚の建築構法に関する調査研究－水害常襲地帯に付む水防建築に関する基礎的研究 その2－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆森田達也・青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：四万十川下流域の商家に見られる柱組材による水害対策について－水害常襲地帯に付む水防建築に関する基礎的研究 その3－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆横田憲寛・青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：水害常襲地帯にみられる規範意識・相互扶助からつくられたカタチに関する調査研究－水害常襲地帯に付む水防建築に関する基礎的研究 その4－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆吉本弘太・青木秀史・畔柳昭雄・坪井望太郎：文化財指定を受ける「田中家藍屋敷」からみる継承に関する研究－水害常襲地帯に付む水防建築に関する基礎的研究 その5－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆安彦智啓・畔柳昭雄・坪井望太郎：地域・施設の性格から捉えた津波避難ビルの施設計画的な研究－津波避難ビルの避難可能距離と避難可能距離の関係－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆竹内寛偉・畔柳昭雄・坪井望太郎：都市臨海部における海上公園利用者の行動実態に関する研究, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12
- ◆坪井望太郎：GISを用いた中国における社会・環境動向の可視化に関する研究－自作ベクター地図による地級市・経済区を分析単位として－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会, 2014.12

- ◆山下聡士・坪井望太郎：津波常襲地域岩手県・宮城県沿岸部における住宅立地の変遷－明治・昭和陸津波を対象として－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆大川薫平・畔柳昭雄・坪井望太郎：「浮体式災害時医療支援システム」のための設置海域の選定方法, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆小松浩樹・菅原 遼・畔柳昭雄・坪井望太郎：河川利用に向けた地域連携の在り方に関する研究－大岡川桜橋の利用状況と管理体制に着目して－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆山崎未来・畔柳昭雄・坪井望太郎：醤油醸造業における河川との関係性の変化に関する研究, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆海野智洋・畔柳昭雄・坪井望太郎：河川管理における住民と行政のかかわり方に関する調査研究－かわまちづくり支援制度を利用した河川事業を対象として－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆佐久間大和・畔柳昭雄・坪井望太郎：東日本大震災被災地域における漁業従事者の意識に関する研究－岩手県宮古市重茂地区を対象として－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆並川茉菜・畔柳昭雄・坪井望太郎：隅田川流域における料亭と水辺の係わり方に関する研究－土地利用の変遷と空間特性－, 第58回・日本大学理工学部学術講演会ポスターセッション, 2014.12
- ◆青木秀史・畔柳昭雄：水害常襲地帯の芽生えた被災文化としての地域・建築的工夫, 環境情報科学学術論文発表会ポスターセッション, 2014.12

著書・執筆等

- ◆日本建築学会編(分担執筆：畔柳昭雄・坪井望太郎)：親水空間論－時代と場所から考える水辺のあり方－, 技報堂出版, 2014.6
- ◆畔柳昭雄：海水浴の現状と動向, 今後, 国立公園, 一般財団法人自然公園財団, 7月号 vol725, 2014.7, pp.11-14
- ◆畔柳昭雄：日本経済新聞朝刊社会面フォローアップ「海水浴場規制の波」インタビュー, 2014.4.28
- ◆畔柳昭雄：毎日新聞夕刊社会面「波立つ湘南のビーチ」インタビュー, 2014.7.31
- ◆畔柳昭雄：朝日新聞朝刊文化面メモワール「歴史 海水浴はいつ始まった(著書紹介)」2014.8.11
- ◆畔柳昭雄：フジテレビノンストップ「海水浴場規制問題」写真出演, 2014.7.22

作品

- ◆畔柳昭雄：What is "Medi-Float"?, INNOVATION EXPOSITOR.101.IN NOVAEXCo.,Ltd.2014

受賞

- ◆青木秀史・本吉真梨・山崎未来：第9回 学生サマーセミナー2013「集積と変化」審査員賞(多田賞)
- ◆青木秀史・吉本弘太・佐野亜莉花：第10回 学生サマーセミナー2014「集積と変化」審査員賞
- ◆青木秀史・畔柳昭雄：第1回 構造デザインコンペティション(総合資格奨励賞)

学外活動(講演・講師等)

- ◆畔柳昭雄：第39回法政大学大学院街づくり都市政策セミナー市民社会における共生の諸相－まちづくりにおける規範カ－分科会「人と水が共生する都市空間」, パネラー, 法政大学大学院, 2014.10.25
- ◆畔柳昭雄：大磯ゆかりの人びとシリーズ10, 「わが町大磯! 松本順の生涯」, 講師, 明治大学大磯校友会, 2014.10.26
- ◆畔柳昭雄：みなと総研港友研究会第20回講演会「伸縮する湖カンボジア・トンレサップ湖から学ぶ、人と水との係わり方」, 講師, 2014.12.2
- ◆畔柳昭雄：近畿大学工学部都市計画学会ワークショップ「時代と場所から考える水辺のあり方」, パネラー, 2014.11.15
- ◆畔柳昭雄：海域システム講座「海洋プロジェクト」, 特別招聘講師, 香川大学工学部安全システム建設工学科, 2014.7
- ◆坪井望太郎：特別講義「社会学における地理情報システムの利用方法」, 於：佛教大学, 2014.11 (講師)

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆坪井望太郎：特別講義「観光学における地理情報システムの利用方法」、於：東海大学、2014.11（講師）
- ◆坪井望太郎：特別講義「都市政策学と地理情報システム」、於：首都大学東京、2014.7（講師）
- ◆坪井望太郎：特別講義「江戸川区の親水公園学」、於：江戸川総合人生大学、2015.3（講師）

——— 学外活動(学会名・委員会名) ———

【教授 畔柳昭雄】

- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会委員(委員)海洋建築フィールド小委員会(委員)
- ◆日本建築学会・都市の水辺小委員会(委員)
- ◆日本建築学会・技術報告集委員会(委員長)
- ◆環境情報科学センター・企画委員会(委員)
- ◆環境情報科学センター・賞選考委員会(委員)
- ◆日本水産工学会(評議員/学協会等連絡担当委員)
- ◆神奈川県・港湾審議会(会長)
- ◆神奈川県・かながわの海岸利用に関するあり方検討会(委員)

【准教授 坪井望太郎】

- ◆日本建築学会・環境工学本委員会(委員)
- ◆日本建築学会・都市の水辺小委員会(委員)
- ◆日本 PC 利用技術学会・全国大会運営委員会(委員)

- ◆環境情報科学・学術研究論文集委員会(幹事・委員)

——— 海外出張・海外調査 ———

- ◆畔柳昭雄：日本大学海外派遣研究員「地域資源を活かした親水デザインに関する調査研究」アメリカ合衆国、2014.8.4～8.25
- ◆畔柳昭雄：洪水常襲地帯における水防建築の空間的設えと生活様式のあり方に関する研究(科研費)、中華人民共和国、2014.11.20～11.24
- ◆畔柳昭雄：メコンデルタの洪水地帯の予備調査、2015.1.29～2.1
- ◆坪井望太郎：第6回 日韓デザインワークショップ・コーディネーター、於：韓国海洋大学、大韓民国、2014.8.17～25
- ◆坪井望太郎：中国上海市における蘇州河整備事業に関する現地調査、中華人民共和国、2015.2.13～18

——— 研究助成・委託研究 ———

- ◆畔柳昭雄：科研費 2014 年度基盤研究(C)一般：洪水常襲地帯における水防建築の空間的設えと生活様式のあり方に関する研究、2014.4～2017.3
- ◆畔柳昭雄：洪水常襲地帯に見る減勢治水対応としての動的特性を考慮した建築空間に関する調査研究、戸田育英財団、2014.4～2015.3
- ◆坪井望太郎：日本大学理工学部基礎科学研究助成(人文・社会科学)：地理情報システムを用いた社会・経済・環境に関する地域分析—中国における二級行政区・地級市を対象として—

桜井研究室

——— 審査付論文 ———

- ◆金田孝之、桜井慎一、近藤健雄、宇崎崎泰寛：港湾再開発における公民共同に関する実証的研究、土木学会論文集、B3(海洋開発)、Vol.70、No.2、pp.I-133～138、2014年6月27日
- ◆金田孝之、桜井慎一、近藤健雄：港湾再開発における街区開発の推進手法についての考察、日本沿岸域学会、沿岸域学会誌、Vol.29、No.1、pp.71～84、2014年6月30日

——— 口頭発表・ポスター発表 ———

- ◆秋本悠喜、桜井慎一：市民認知を継承する津波碑の保存・整備に関する研究—(その2)青森県・宮城県における現地調査結果に基づく考察—、2014年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、CD-ROM版、論文番号1-3、2014年7月25日
- ◆寺内将貴、桜井慎一、長島美菜子：海の家クラブ化が近隣に及ぼす影響に関する研究—神奈川県海水浴場を対象とした住民アンケート調査—、2014年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、CD-ROM版、論文番号7-3、2014年7月25日
- ◆鷹島充寿、桜井慎一、塚田紗衣：大型クルーズ客船の受け入れ体制に関する研究—全国の港湾に対するアンケート調査結果—、2014年度日本沿岸域学会研究討論会講演概要集、CD-ROM版、論文番号7-5、2014年7月25日
- ◆佐保良平、桜井慎一、鷹島充寿：水辺の環境に適合するベンチの配置計画に関する研究—船橋市坪井近隣公園内の調整池を対象とした考察—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10001、2014年9月12日
- ◆畠山礼暉、桜井慎一、秋本悠喜、大畑孔明：ウォーターフロントにおけるスケートパークの利点と課題、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10002、2014年9月12日
- ◆鷹島充寿、桜井慎一、永田住大：常時滞水型調整池の水域利用に関する研究—水上レクリエーションのできる3か所の比較を通じて—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10003、2014年9月12日
- ◆吉原亮、桜井慎一、秋本悠喜：海浜のプライベートビーチ化に関する研究—沖縄県のリゾートホテルを対象として—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10004、2014年9月12日
- ◆栗原聖子、桜井慎一、秋本悠喜：洋上風力発電施設設置に対する漁業従事者の認識と評価、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10013、2014年9月12日
- ◆渡邊祥太郎、桜井慎一、横山巧、寺内将貴：津波避難タワーの機能向上策に関する研究—西日本太平洋沿岸4県を対象として—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10027、2014年9月13日

- ◆畠山礼暉、桜井慎一、鷹島充寿：河川水難事故の特徴に関する研究—海なし県と海あり県の発生件数の違いからみた考察—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10028、2014年9月13日
- ◆池上信太郎、桜井慎一、菊池諒光、寺内将貴：津波避難誘導標識の効果的掲出方法に関する研究—湘南4市町の比較を通じて—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10029、2014年9月13日
- ◆寺内将貴、桜井慎一、岩澤直：サーファーに対する津波避難情報の伝達と海岸整備に関する研究—神奈川県湘南3海岸でのアンケート調査結果—、日本建築学会大会(近畿・神戸大学)学術講演梗概集(海洋建築部門)、講演番号10030、2014年9月13日
- ◆鷹島充寿、桜井慎一：コンジョイント分析を用いた調整池の親水公園化整備案の検討、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-9〉、2014年12月6日
- ◆寺内将貴、桜井慎一：海水浴場における津波避難対策に関する研究、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-10〉、2014年12月6日
- ◆池上信太郎、桜井慎一、鷹島充寿：津波避難シェルターの普及の可能性に関する研究、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-23〉、2014年12月6日
- ◆佐保良平、桜井慎一、寺内将貴：津波避難時において予想浸水区域内の線路が及ぼす影響に関する研究、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-24〉、2014年12月6日
- ◆横山巧、桜井慎一、寺内将貴：津波避難タワーの整備実態に関する研究—西日本沿岸10県を対象として—、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-25〉、2014年12月6日
- ◆菊池諒光、桜井慎一、寺内将貴：夜間における効果的な津波避難誘導標識に関する研究—静岡県11市を対象として—、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-26〉、2014年12月6日
- ◆吉原亮、桜井慎一、秋本悠喜：プライベートビーチを名乗る海浜の管理・運営実態に関する研究—東日本20か所のビーチを対象として—、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-27〉、2014年12月6日
- ◆高橋奎太郎、桜井慎一、寺内将貴：条例改正が海の家へ及ぼす影響に関する研究—神奈川県逗子海水浴場の海の家を対象としたアンケート調査—、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集(海洋建築系)〈講演番号J-28〉、2014年12月6日
- ◆渡邊祥太郎、桜井慎一、秋本悠喜：海洋再生可能エネルギー発電施設と漁業者と

教員研究業績 研究室活動業績

の関係に関する研究、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）＜講演番号J-29＞、2014年12月6日

- ◆大畑孔明、桜井慎一、鷹島充寿：魚市場一般開放化の利点と課題—関東1都6県を対象としたアンケート調査結果—、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）＜講演番号J-30＞、2014年12月6日
- ◆島山礼暉、桜井慎一、秋本悠喜：スケートパーク建設におけるウォーターフロント立地の優位性に関する研究、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）＜講演番号J-31＞、2014年12月6日
- ◆島山礼暉、桜井慎一、鷹島充寿：河岸道における自転車利用者と歩行者の共存に関する研究—横十間川沿いの河岸道を対象として—、平成26年度日本大学理工学部学術講演会講演論文集（海洋建築系）＜講演番号J-32＞、2014年12月6日

著書

- ◆桜井慎一ほか：日本建築学会編、海洋建築計画・設計指針、日本建築学会、2015年2月15日
- ◆桜井慎一：日本建築学会編、東日本大震災合同調査報告、建築編5、津波の特性と被害、2.5 東京湾沿岸地帯の津波被害、pp.200-203、丸善出版

表彰・受賞

- ◆秋本悠喜：日本沿岸学会、研究討論会2014優秀講演賞受賞、2014年10月20日
- ◆鷹島充寿：日本沿岸学会、研究討論会2014優秀講演賞受賞、2014年10月20日
- ◆桜井慎一：日本大学理工学部、平成26年度学会・協会賞、2014年11月20日

社会活動

- ◆桜井慎一：船橋市開発審査会（会長）
- ◆桜井慎一：船橋市臨海部の回遊性創出に向けた基本構想策定業務に係るプロポーザル評価委員会（委員長）
- ◆桜井慎一：臨海部都市再開発研究会、委員

講習会講師

- ◆桜井慎一：日本建築学会海洋委員会主催、講習会「海洋建築の計画・設計指針」、2015年2月16日（月）13:00～16:30、建築会館ホール

研究費

- ◆桜井慎一：研究奨励寄付金、都心臨海部における新たな事業手法の検討、一般社団法人クルーザーパークヨコハマ、2015年1月

学会活動

- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・論文集委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築計画・設計指針刊行小委員会（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築設計指針調整WG（委員）
- ◆桜井慎一：日本建築学会・海洋建築フィールド小委員会（主査）
- ◆桜井慎一：日本沿岸学会・論文集編集委員会（委員）

佐藤研究室

口頭発表・ポスター発表（著者名：発表論文名、学会名、発表年月）

- ◆佐藤信治・亀田宏樹：東京五輪で変わる未来の海—水上交通網を活用した新しいウォーターフロントの提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆佐藤信治・○滝村菜香：東京谷に住む、雨と暮らすまちの提案、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆涌井 匠・佐藤信治：植物工場を内在した浮体式サイエンスセンターの設計—地方都市における農工商連携拠点施設の提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆志堂侑太・佐藤信治：文化伝承—花街と神楽坂の記憶—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆久保田礼菜・佐藤信治：憶いの集う地下神殿—放水路を利用した祈りの空間の提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆樋浦直紀・佐藤信治：水濠の記憶—首都高速道路更新に伴う親水空間の再生—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆佐藤信治・藤本幸汰：三陸海岸城壁都市—人々が沿岸で暮らし続けるための提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆井出 健・佐藤信治：再生するまち—新たな社会復帰支援の形の提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆山影悠時・佐藤信治：木密の新しい未来—北区志茂地区における防災積層計画の提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆白坂 真・佐藤信治：流れる生活を感じる—都市部における清掃工場の計画—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆佐藤信治・堤 昭文：星の痕跡—星野村における防災及び復興・再編の提案—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆佐藤信治・山出 亮：発電乃湯、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆佐藤信治・戸田寛康：社の空間構成に関する研究その7—神社の水中とその参道空間について—、第58回日本大学理工学部学術講演会、2014.12
- ◆山川大喜・佐藤信治：恥ずかしがりやの集合体、日本建築学会大会学術講演会、2014年9月13日
- ◆川崎将、佐藤信治：余白と仮設の舞台—石巻市中瀬地区における水産業複合型施設の提案、日本建築学会大会学術講演会、2014年9月13日
- ◆遠洞躍斗、佐藤信治：佐藤信治：人生の余地—冠婚葬祭をもとに人生に寄り添う建築、日本建築学会大会学術講演会、2014年9月13日
- ◆石原幹太、佐藤信治：静岡市三保地域における複合福祉施設的设计—地域に開かれた健康促進・交流施設の提案、日本建築学会大会学術講演会、2014年9月13日

著書・執筆等

- ◆佐藤信治ほか編、著：住宅課題賞2013「建築系大学住宅課題賞作品展」、株式会社総合資格、2014年7月8日
- ◆佐藤信治ほか編、著：一般財団法人海洋環境創生機構年報2013、海洋環境創生機構発行、2014年3月27日
- ◆佐藤信治ほか編、著：OASIS加盟校学生作品集「2014年度版」、エアーアンドエー株式会社、2014年8月22日

作品

- ◆佐藤信治＋佐藤信治研究室：奈良県及び医療政策部病院マネジメント課主催、奈良県総合医療センター周辺県有地活用アイデアコンペ、優秀賞受賞、2015年1月21日
- ◆アトリエK、佐藤信治＋佐藤信治研究室：岩手県 釜石市民ホール（仮称）等建設工事設計業務委託プロポーザルコンペ、2014.01.21 提出、第一次審査通過作品、
- ◆佐藤信治＋佐藤信治研究室、アトリエK：岩手県洋野町 町立中野小学校改築工事設計者選定に係るプロポーザル技術提案書コンペ、2014.07.31 提出、総合第三位
- ◆アトリエK、佐藤信治＋佐藤信治研究室：山口県岩国市市民会館改築建設工事設計業務委託プロポーザルコンペ、2014年08月22日、総合第一位、基本設計者に特定

受賞（執筆者名：受賞論文名、学会誌名、巻号、頁、受賞内容）

- 【卒業設計】
- ◆第26回千葉建築学生賞 余白と仮設の舞台—津波を許容する新たな水産業施設— 川崎将 奨励賞 2014年3月16日
- ◆第26回千葉建築学生賞 恥ずかしがりやの集合体 山川大喜 奨励賞 2014年3月16日
- 【コンペ】
- ◆キルコス国際設計コンペティション2013「借り暮らし。貸し暮らし。」菅原雅之 古谷誠章賞 佳作 2013年12月25日
- ◆キルコス国際設計コンペティション2014「5つの土地と1つの家」浅見花、

教員研究業績 研究室活動業績

遠洞躍斗、森浩平 五十嵐淳賞 銅賞 2014年 12月 25日

- ◆第六回 日本大学桜門建築学会学生設計コンペティション 街と孤人の間で 山川大喜・滝村菜香・斎藤賢司 銅賞 2014年 11月 22日
- ◆第六回 日本大学桜門建築学会学生設計コンペティション 分譲賛沢地 涌井匠・遠洞躍斗・山影悠時 佳作 2014年 11月 22日
- ◆出山 亮、井出 健、宇山 浩和、戸田 寛康、樋浦 直紀：よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ、作品名：東神奈川臨海図書館 ～本でつながるうみのまち～ 結果：デザイン賞
- ◆志萱 侑太、亀田 宏樹、滝村 菜香、福島 弘明、増田 顕弘：よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ、作品名：ひと・ゆとり・まちを紡ぐ場所、結果：佳作
- ◆山影 悠時、久保田 礼菜、白坂 真、藤本 幸汰：よこはまの海を活かしたまちづくりコンペ、作品名：作品名：花が彩る水際のまち、結果：佳作
- ◆石原幹太：日本大学部科校長賞 2014.03.25
- ◆菅原雅之：桜工賞 2014.03.25
- ◆重田秀之：住宅課題賞 2014 建築系大学住宅課題優秀作品展示 竹中工務店東京本店ギャラリーエークウッドホール 2014年 11月 4日～ 11月 21日
- ◆浅見 花：第6回 Vectorworks 教育シンポジウム 2014「森の水族館」作品展示 大手町サンケイプラザ 2013年 8月 23日

学外活動（講演・講師等）

- ◆佐藤信治：海洋建築の未来について、於：関西大学東京センター、2015年 1月 22日、講演会講師
- ◆佐藤信治：羽後町の未来について日本大学の学生と考えました、於：秋田県羽後町庁舎2階ホール、2014年 8月 7日、講演会講師

- ◆佐藤信治：講演会「新北京水族館の提案」、中華人民共和国、2014年 8月 16日、於 TownArtMuseum

学外活動（学会名・委員会名）

- ◆(財)日本建築学会全国建築系大学教育連絡協議会委員
- ◆(財)日本建築学会 JABEE 学部課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会審査委員
- ◆(財)日本建築学会 JABEE 修士課程（建築学・建築学関連分野）認定審査委員会審査委員
- ◆(財)東京建築士会
- ◆千葉県産学連携建築連絡会議運営委員会委員
- ◆千葉県建築学生賞 運営委員会委員
- ◆秋田産学サポータークラブ委員会委員
- ◆(財)海洋環境創生機構運営委員会委員

海外出張・海外調査

- ◆佐藤信治＋佐藤信治研究室、中国建築科学研究院：「Soul of City 水都市の魂」展示会、中華人民共和国、2014年 8月 15日～ 29日、於 TownArtMuseum1階ホール
- ◆佐藤信治：講演会「新北京水族館の提案」、中華人民共和国、2014年 8月 16日、於 TownArtMuseum
- ◆佐藤信治：「Soul of City 水都市の魂」展示会及び講演会「新北京水族館の提案」のための北京市における水族館施設の調査、中国建築科学研究院と共同、中華人民共和国、2014年 4月 24日～ 27日

山本研究室

口頭発表・ポスター発表

- ◆三好隆正・山本和清・近藤健雄：災害時用援護者における自主防災組織の構築に関する調査・研究、日本沿岸域学会研究討論会 2014（セッション 11-1）講演概要集 CD-ROM, 2014.7
- ◆藤生拓身・山本和清・近藤健雄・小澤貴志：津波関連標識のデザインに関する研究－太平洋沿岸における市区町村の事例調査を基にして－、日本沿岸域学会研究討論会 2014（セッション 13-1）講演概要集 CD-ROM, 2014.7
- ◆藤生拓身・山本和清・近藤健雄：津波災害時における自動車避難に関する調査研究－千葉県長生郡一宮町を対象地として－、日本福祉のまちづくり学会 第 17 回全国大会概要集、概要集 CD-ROM, 2014.8
- ◆元木優甫・鈴木翔馬・山本和清・近藤健雄：東京湾沿岸地に立地する企業の BCP 策定に関する意識調査、第 58 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM, 2014.12
- ◆伏谷洋俊・山本和清・近藤健雄：沿岸部における巨大防潮堤のあり方に関する研究－岩手県釜石市を対象地として－、第 58 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM, 2014.12
- ◆仁平広志・山本和清・近藤健雄：海浜空間における利便施設の分布と機能に関する調査研究－千葉県九十九里浜に所在する海水浴場を対象として－、第 58 回日本大学理工学部学術講演会（海洋建築系部会）予稿集 CD-ROM, 2014.12

著書・執筆等

【特任教授 近藤健雄】

- ◆近藤健雄、「漁港の多目的利用の現状と課題」、公益財団法人後藤・安田記念都市研究所、都市問題第 105 巻第 12 号 pp82－94、2014年 12月

学外活動（学会名・委員会名）

【専任講師 山本和清】

- ◆日本沿岸域学会 企画運営委員会（委員）
- ◆日本福祉のまちづくり学会 身体と空間特別研究委員会（委員）
- ◆千葉県 千葉県建設工事総合評価委員会（委員）
- ◆銚子市漁業協同組合 建設工事総合評価委員会（委員）

- ◆東京湾の環境をよくするために行動する会（監事）
- ◆(一社) みなと船橋振興協会（理事）
- ◆東京湾再生官民連携フォーラム 江戸前ブランド PT（メンバー）

【特任教授 近藤健雄】

学協会等の役員

- ◆(社) 日本マリナー・ビーチ協会：理事・副会長
- ◆(NPO) 海に学ぶ体験活動協議会 CINAC 顧問
- ◆(NPO) 沿岸開発機構・千葉 副会長
- ◆(NPO) 大阪湾みなとまち生活文化研究センター 理事長
- ◆任意法人 東京湾の環境をよくするために行動する会 設立発起人・顧問
- ◆一般財団法人海洋レジャー安全協会 海の駅ネットワーク協議会 理事
- ◆(NPO) 沿岸環境保護協会 副理事長
- ◆一般財団法人みなと総合研究所 海辺活動振興助成 審査委員会 委員
- ◆財団法人港湾空港建設技術サービスセンター：評議員選定委員会委員
- ◆一般社団法人みなと船橋振興協会：理事長

委員会等

＜国関係＞

- ◆環境省・国土交通省・農林水産省：自然再生専門家会議委員会 委員
- ◆農林水産省水産庁：政策審議会委員・漁港漁場整備部会長

＜都県関係＞

- ◆神奈川県藤沢土木事務所：湘南海岸中海岸侵食対策検討委員会・委員長
- ◆神奈川県国土整備部相模灘沿岸海岸基本計画委員会・委員長
- ◆神奈川県国土整備部東京湾沿岸海岸基本計画委員会・委員長
- ◆千葉県国土整備部・長生土木事務所：一宮町の魅力ある海岸づくり会議・会長
- ◆千葉県国土整備部・船橋ポートパーク管理運営状況に係る第三者評価委員会・座長

＜市町村関係＞

- ◆千葉県館山市：館山ふるさと特使
- ◆千葉県館山市：館山市建設総合評価委員
- ◆神奈川県横須賀市：横須賀港浅海域保全・再生研究委員会・委員長

北嶋研究室

審査付論文

- ◆古谷章、北嶋圭二、楠浩一、田才晃、中西三和、安達洋：多数回繰り返し荷重を受ける超高層 RC 造建築物の最下層柱の構造性能に関する研究、日本建築学会構造系論文集、第 80 巻、第 709 号、pp.469-479、2015.3
- ◆天羽祥太、市原寿人、北嶋圭二、中西三和：定常応答解析による制震補強建築物の保有減衰性能の評価法の提案、コンクリート工学年次論文集、pp.823-828、2014.6
- ◆佐々木成紀、瑞慶覧長尚、古谷章、中西三和：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建築物の柱梁接合部に関する実験的研究、コンクリート工学年次論文集、pp.241-246、2014.6
- ◆杉本太一、難波隆行、加村久哉、中西三和、高強度長方形断面 CFT 柱の圧縮性能に関する実験的研究、コンクリート工学年次論文集、pp.1057-1062、2014.6

口頭発表・ポスター発表

- ◆菅野裕識、石渡晶悟、安達洋、中西三和、北嶋圭二：津波漂流物の衝突を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究（その 1 実験概要）、日本建築学会大会（近畿）、pp.45-46、2014.09
- ◆石渡晶悟、菅野裕識、安達洋、中西三和、北嶋圭二：津波漂流物の衝突を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究（その 2 実験結果）、日本建築学会大会（近畿）、pp.47-48、2014.09
- ◆櫻井陽子、黒木二三夫、中西三和、北嶋圭二、安達洋：極寒地に於ける実大規模アイスドームの建設、日本建築学会大会（近畿）、pp.735-736、2014.09
- ◆天羽祥太、市原寿人、北嶋圭二、中西三和、安達洋：制震補強建築物の耐震性能評価法に関する研究（その 4 9 階建て制震補強建物への適用例）、日本建築学会大会（近畿）、pp.661-662、2014.09
- ◆渡邊恭平、柳田佳伸、波田雅也、新井佑一郎、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究（その 6 滑り基礎構造を有する建物の地震応答性状）、日本建築学会大会（近畿）、pp.489-490、2014.09
- ◆柳田佳伸、渡邊恭平、波田雅也、新井佑一郎、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究（その 7 実大施工実験と滑り性能確認実験）、日本建築学会大会（近畿）、pp.491-492、2014.09
- ◆竹内健一、新井佑一郎、波田雅也、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その 6 実建物への適用事例）、日本建築学会大会（近畿）、pp.1051-1052、2014.09
- ◆波田雅也、竹内健一、新井佑一郎、北嶋圭二、中西三和、安達洋：細長比 533 の極細芯材を用いた折返しプレースの実験的研究、日本建築学会大会（近畿）、pp.1053-1054、2014.09
- ◆杉本太一、難波隆行、坂東美乃利、加村久哉、北嶋圭二、中西三和、安達洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究（その 8 幅厚比の大きな長方形断面 CFT 柱の実験概要およびコア供試体・ブレンコンクリート・中空鋼管試験体の実験結果）、日本建築学会大会（近畿）、pp.1399-1400、2014.09
- ◆坂東美乃利、杉本太一、難波隆行、加村久哉、北嶋圭二、中西三和、安達洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究（その 9 幅厚比の大きな長方形断面 CFT 柱の実験結果）、日本建築学会大会（近畿）、pp.1401-1402、2014.09
- ◆難波隆行、杉本太一、坂東美乃利、難波隆行、加村久哉、北嶋圭二、中西三和、安達洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究（その 10 受動拘束された充填コンクリートの挙動）、日本建築学会大会（近畿）、pp.1403-1404、2014.09
- ◆伊藤渚、瑞慶覧長尚、佐々木成紀、古谷章、北嶋圭二、楠浩一、田才晃、中西三和、安達洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建築物の柱梁接合部の性能に関する実験的研究（その 1 実験概要）、日本建築学会大会（近畿）、pp.437-438、2014.09
- ◆瑞慶覧長尚、伊藤渚、佐々木成紀、古谷章、北嶋圭二、楠浩一、田才晃、中西三和、安達洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建築物の柱梁接合部の性能に関する実験的研究（その 2 実験結果-1）、日本建築学会大会（近畿）、pp.439-440、2014.09
- ◆佐々木成紀、伊藤渚、瑞慶覧長尚、古谷章、北嶋圭二、楠浩一、田才晃、中西三和、安達洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建築物の柱梁接合部の性能に関する実験的研究（その 3 実験結果-2）、日本建築学会大会（近畿）、pp.441-442、2014.09
- ◆清水英、山下忠道、伏徹志、伊藤真二、岡本勇紀、笠井和彦、坂田弘安、北嶋圭二：制振補強効果による動的性能向上倍率の算出（その 15 耐震補強建物と制振補強建物による動的性能向上倍率の比較）、日本建築学会大会（近畿）、pp.657-658、2014.09
- ◆加藤真人、名取祥一、川瀬晶子、石山昌幸、久保田雅春、大澤健、三塩洋一、北嶋圭二：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その 9 S 造事務所ビルエネルギー法の設計方針）、日本建築学会大会（近畿）、pp.859-860、2014.09
- ◆大澤健、久保田雅春、名取祥一、川瀬晶子、三塩洋一、石山昌幸、山崎信宏、北嶋圭二：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その 10 エネルギー法による検討結果）、日本建築学会大会（近畿）、pp.861-862、2014.09
- ◆川瀬晶子、久保田雅春、名取祥一、大澤健、三塩洋一、石山昌幸、山崎信宏、北嶋圭二：レンズ形状を有するせん断パネルダンパーの開発（その 11 エネルギー法と地震応答解析の比較）、日本建築学会大会（近畿）、pp.863-864、2014.09
- ◆柳田颯太郎、菅野裕識、石渡晶悟、北嶋圭二、中西三和、安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究（その 1 実験概要）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.589-590、2014.12
- ◆菅野裕識、柳田颯太郎、石渡晶悟、北嶋圭二、中西三和、安達洋：津波漂流物の衝突を想定した RC 部材の挙動に関する実験的研究（その 2 実験結果）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.591-592、2014.12
- ◆天羽祥太、北嶋圭二、中西三和、安達洋：制震補強建築物の耐震性能評価法に関する研究（その 4 9 階建て粘性系ダンパー補強建物に対する検討とエネルギー吸収時刻歴による評価結果との比較・検討）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.101-102、2014.12
- ◆渡邊恭平、柳田佳伸、波田雅也、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究（その 6 滑り基礎構造を有する建物の地震応答性状）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.107-108、2014.12
- ◆柳田佳伸、渡邊恭平、新井佑一郎、波田雅也、北嶋圭二、中西三和、安達洋：黒鉛を摩擦材とした滑り基礎構造に関する研究（その 7 実大試験体の加力試験）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.109-110、2014.12
- ◆竹内健一、波田雅也、新井佑一郎、村井克綺、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その 6 実建物への適用事例）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.103-104、2014.12
- ◆村井克綺、新井佑一郎、波田雅也、竹内健一、北嶋圭二、中西三和、安達洋：折返しプレースの構造特性に関する実験的研究（その 7 実適用部材の加力実験）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.105-106、2014.12
- ◆波田雅也、竹内健一、新井佑一郎、北嶋圭二、中西三和、安達洋：細長比 533 の極細丸鋼を芯材に用いた折返しプレースの実験的研究、第 58 回理工学部学術講演会、pp.39-40、2014.12
- ◆齋藤大樹、坂東美乃利、新藤辰典、難波隆行、加村久哉、田嶋和樹、白井伸明、北嶋圭二、中西三和、安達洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究（有限要素法による円形 CFT 柱の解析モデルの概要）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.95-96、14.12
- ◆坂東美乃利、齋藤大樹、新藤辰典、難波隆行、加村久哉、田嶋和樹、白井伸明、北嶋圭二、中西三和、安達洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究（拘束効果を考慮した 3 次元構成則モデルの検証）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.97-98、2014.12
- ◆新藤辰典、坂東美乃利、齋藤大樹、難波隆行、加村久哉、田嶋和樹、白井伸明、北嶋圭二、中西三和、安達洋：高強度 CFT 柱の構造性能に関する研究（解析モデルの検証）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.99-100、2014.12
- ◆伊藤渚、古谷章、北嶋圭二、楠浩一、田才晃、中西三和、安達洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建築物の柱梁接合部の部材性能に関する研究（その 1 実験概要）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.111-112、2014.12
- ◆齋藤純毅、古谷章、北嶋圭二、楠浩一、田才晃、中西三和、安達洋：長周期地震動を受ける超高層 RC 造建築物の柱梁接合部の部材性能に関する研究（その 2 実験結果）、第 58 回理工学部学術講演会、pp.115-116、2014.12

著書・執筆等

- ◆中西三和、北嶋圭二、日本建築学会著：海洋建築の計画・設計指針、日本建築学会、2015.2

教員研究業績 研究室活動業績

- ◆北嶋圭二、日本免震構造協会編：設計者のための免震・制震構造ハンドブック、朝倉書店、2014.6
- ◆安達洋、北嶋圭二、日本 ERI 高層評定委員会著：性能評価を踏まえた免震・制震構造の設計、技報堂出版、2014.5

——— 作 品 ———

- ◆竹内健一、波田雅也、新井佑一郎、北嶋圭二：中津川包装工業本社ビル（軸降伏変位が増大する「折返しブレース」を用いた事務所ビル）、日本建築構造技術者協会・JSCA 構造デザイン発表会、2014.10

——— 社会活動（講演・講師等） ———

【特任教授 中西三和】

- ◆中西三和：講習会「海洋建築の計画・設計指針」第4章 設計、第5章 管理、日本建築学会海洋建築委員会、2015.2、(講師・司会)

【准教授 北嶋圭二】

- ◆北嶋圭二：既存中層鉄筋コンクリート造建物の等価線形化法を用いた耐震性能評価法「14階建物の耐震性能評価」、日本建築学会大会(近畿)構造部門(RC造)パネルディスカッション、2014.9、(主題解説・パネラー)
- ◆北嶋圭二：第5回パッシブ制振構造の設計・計算講習会「摩擦ダンパー紹介、摩擦ダンパー制振構造の設計・計算」、日本免震構造協会、2014.11、(講師)

——— 学会活動 ———

【特任教授 中西三和】

- ◆日本建築学会 海洋建築本委員会(委員)
- ◆日本建築学会 刊行小委員会(委員)
- ◆日本建築学会 海洋建築エンジニアリング小委員会(主査)
- ◆日本建築学会 震災報告書編集委員会(委員)
- ◆日本建築学会 災害本委員会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部 地震災害調査連絡会(委員)
- ◆国際確認検査センター評価委員会(委員)
- ◆日本 ERI 監視委員会(技術的検査委員)

【准教授 北嶋圭二】

- ◆日本建築学会・鉄筋コンクリート構造運営委員会(委員)

- ◆日本建築学会・東日本大震災報告書編集WG(委員)
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価小委員会(幹事)
- ◆日本建築学会・既存中層 RC 建物の耐震性能評価小委員会評価例作成 WG(主査)
- ◆日本建築学会・等価線形化法に基づく地震応答評価法 WG(委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築エンジニアリング小委員会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部・地震災害調査連絡会(委員)
- ◆日本建築学会関東支部・講習会用構造テキスト委員会免震制振構造の設計執筆 WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会(委員)
- ◆日本免震構造協会・制震部材品質基準小委員会摩擦ダンパー WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会制振普及 WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・パッシブ制振評価小委員会基準対応 WG(委員)
- ◆日本免震構造協会・修士論文審査委員会(委員)
- ◆構造調査コンサルティング協会・構造物評定員会(委員)
- ◆ハウスプラス確認検査・耐震診断・耐震改修等評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・耐震判定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・高層評定委員会(委員)
- ◆日本建築検査協会・指定構造計算適合性判定機関の専門家委員会(委員)

——— 研究助成・委託研究 ———

- ◆中西三和・北嶋圭二：委託研究費、JFE スチール(株)、高強度 CFT の構造性能に関する解析的研究
- ◆中西三和・北嶋圭二：委託研究費、(株)ケーエフシー、あと施工せん断補強材を用いた梁部材におけるせん断補強効果の確認
- ◆中西三和・北嶋圭二：委託研究費、(株)ケーエフシー、あと施工せん断補強材を用いた柱部材におけるじん性の確認
- ◆北嶋圭二：委託研究費、青木あすなろ建設(株)、合理的な耐震構造に関する研究開発(3)
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、日本建造(株)、飛鳥建設(株)、鉄建建設(株)、レンズ型制震ダンパーの技術開発
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、アキレス(株)、円形免震装置の技術開発
- ◆北嶋圭二：研究奨励寄付金、エモーションズ(株)、壁面取付金具の耐震実験研究

近藤研究室

——— 審査付論文 ———

- ◆Norio Kondo: Three-dimensional computation for flow-induced vibrations of an upstream, circular cylinder in two tandem circular cylinders, International Journal of Computational Fluid Dynamics, Vol.28, No.6-10, pp.461-476, 2014年12月.

——— 口頭発表・ポスター発表 ———

- ◆近藤典夫：直列2円柱の渦励振に関する数値的精度について、日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、CD-ROM、平成26年9月
- ◆新宮清志、平塚聖敏、富山恭平、近藤典夫、入江寿弘：鉄筋コンクリート球形シェルの減衰定数評価、日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、CD-ROM、平成26年9月
- ◆神田恒平、恵藤浩朗、近藤典夫：大型浮体構造物まわりの流れ性状と流体力特性に関する3次元数値シミュレーション、日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、CD-ROM、平成26年9月
- ◆竹下大地、近藤典夫：高レイノルズ数における円柱の渦励振、日本建築学会大会学術講演梗概集(近畿)、CD-ROM、平成26年9月
- ◆近藤典夫：臨界間隔以降で配置された直列2円柱の渦励振解析、第61回理論応用力学講演会講演論文集、USB、平成26年9月
- ◆平塚聖敏、新宮清志、富山恭平、近藤典夫、入江寿弘：フィルター処理とハーブパワー法を用いた鉄筋コンクリート球形シェルの減衰評価、第61回理論応用力学講演会講演論文集、USB、平成26年9月
- ◆近藤典夫、田中裕基：並列2円柱の渦励振に質量比が及ぼす影響について、第27回計算力学講演会論文集、CD-ROM、平成26年11月

- ◆神田恒平、恵藤浩朗、近藤典夫：くい違い配置2円柱の流体力特性と流力振動に関する数値計算、平成26年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、CD-ROM、平成26年12月
- ◆竹下大地、近藤典夫：高レイノルズ数流れによる円柱の流体力特性と流体振動に関する3次元数値シミュレーション、平成26年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、CD-ROM、平成26年12月
- ◆小川千明、近藤典夫：直列2円柱の流力振動に関する3次元数値解析、平成26年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、CD-ROM、平成26年12月
- ◆田島沙織、近藤典夫：エルセントロ地震動による円筒タンク内の液面解析、平成26年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、CD-ROM、平成26年12月
- ◆鈴木隆之、近藤典夫：直列2角柱の流力振動に関する数値解析、平成26年度日本大学理工学部学術講演会予稿集、CD-ROM、平成26年12月

——— 学外活動 ———

- ◆日本建築学会 衝撃作用連成問題小委員会 幹事
- ◆日本建築学会 構造委員会 シェル・空間構造運営委員会委員
- ◆日本建築学会 構造委員会 応用力学運営委員会委員
- ◆日本建築学会 海洋建築フィールド小委員会
- ◆日本建築学会 不整形構造物のモデリング検討委員会
- ◆日本機械学会 計算力学講演会 オーガナイザー

——— 研究助成・委託研究 ———

- ◆科学研究補助金 基盤研究(C)：接近した2円柱の流力振動および作用する流体力特性に関する数値的研究

浜原・福井研究室

審査付論文

- ◆福井剛, 浜田公也, 渡邊一弘, 西山峰広: 圧縮線応力度を変数とした高応力低サイクル疲労試験によるPCaPC梁の損傷評価, コンクリート工学年次論文集, vol.36, No.2, pp.25-30, 2014.7
 - ◆福井剛, 毛利浩, 大塚夕, 渡邊和弘: 山形の凹凸を有するPCaPC梁圧着接合面の摩擦係数に関する実験的研究, プレストレストコンクリート工学会, プレストレストコンクリートの発展に関するシンポジウム論文集 pp151-156, 2014.10
- ### 口頭発表・ポスター発表
- ◆山田康之・浜原正行: PC造L型柱梁接合部応力伝達機構に関する解析的研究, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.117-118, 2014.12
 - ◆大川峻・内田龍一郎・小西智樹・浜原正行: プレストレストコンクリート構造の復元力特性に関する研究 一その1 修正モデルの提案, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.119-120, 2014.12
 - ◆内田龍一郎・大川峻, 小西智樹・浜原正行: プレストレストコンクリート構造の復元力特性に関する研究 一その2 平均減衰の提案, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.121-122, 2014.12
 - ◆小西智樹・内田龍一郎・大川峻・浜原正行: プレストレストコンクリート構造の復元力特性に関する研究 一その3 プレストレストコンクリート骨組の履歴傾向, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.123-124, 2014.12
 - ◆内田順子・福井剛・小松崎真彦・浜原正行: PCaPC部材のトラス機構の構成条件に関する実験的研究 一その1 実験結果と実験概要, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.593-594, 2014.12
 - ◆大塚夕, 福井剛・小松崎真彦・浜原正行: PCaPC部材のトラス機構の構成条件に関する実験的研究 一その2 実験結果, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.595-596, 2014.12
 - ◆山崎祐輝, 福井剛・小松崎真彦・浜原正行: PCaPC部材のトラス機構の構成条件に関する実験的研究 一その3 帯筋寄与分と既存推定式の計算精度, 日本大学理工学部学術講演会論文集, pp.597-598, 2014.12
 - ◆大川峻・内田龍一郎・小西智樹・浜原正行: プレストレストコンクリート建物の復元力特性に関する研究 一その1 モデルの提案, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.732-733, 9

- ◆内田龍一郎・大川峻, 小西智樹・浜原正行: プレストレストコンクリート建物の復元力特性に関する研究 一その2 応答性状, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.736-737, 9
- ◆小西智樹・内田龍一郎・大川峻・浜原正行: プレストレストコンクリート建物の復元力特性に関する研究 一その3 骨組の履歴性状, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.738-739, 9
- ◆内田順子・福井剛・小松崎真彦・浜原正行: 異形PC鋼棒を用いたPCaPC部材のせん断性状に関する実験的研究 一その1 実験概要, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.761-762, 9
- ◆大塚夕, 福井剛・小松崎真彦・浜原正行: 異形PC鋼棒を用いたPCaPC部材のせん断性状に関する実験的研究 一その2 実験結果, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.763-764, 9
- ◆山崎祐輝, 福井剛・小松崎真彦・浜原正行: 異形PC鋼棒を用いたPCaPC部材のせん断性状に関する実験的研究 一その3 結果の考察, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.763-764, 9
- ◆山田康之・大塚夕・浜原正行: PC造L型柱梁接合部せん断伝達機構の有限要素解析, 日本建築学会学術講演梗概集, pp.789-790, 9

著書・執筆等

- ◆プレストレストコンクリート造建築物の性能評価型設計施工指針(案)・同解説, 日本建築学会, 2015.2

学外活動

【教授 浜原正行】

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会(委員)
- ◆PC工学会・プレストレストコンクリートP 技法試験作成委員会(委員)

【准教授 福井剛】

- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート構造運営委員会(委員)
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート規準指針小委員会(委員)
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート常時荷重設計法小委員会(主査)
- ◆日本建築学会・プレストレストコンクリート材料・施工WG(委員)

増田・居駒・恵藤研究室

審査付論文

- ◆KOICHI, Masuda, MITSUHIRO, Masuda, MINAMI Kiyokazu, IKOMA Tomoki, OHONO Masato and NAKAMURA Fuminori, "STUDY ON DEVELOPMENT OF THE FLOATING PIER FOR DAMAGE PROTECTION CONTROL OF SHIP IN TSUNAMI" Proceedings of the ASME 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'14), ASME, 24428, CD-ROM, 2014.5
- ◆NIHEI Yasunori, IJIMA Kazuhito, MURAI Motohiko and IKOMA Tomoki, "A COMPARATIVE STUDY OF MOTION PERFORMANCE OF FOUR DIFFERENT FOWT DESIGNS IN COMBINED WIND AND WAVE LOADS" Proceedings of the ASME 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'14), ASME, 24643, CD-ROM, 2014.5
- ◆MASUDA Mitsuhiro, MINAMI Kiyokazu, MASUDA Koichi and IKOMA Tomoki, "A FUNDAMENTAL STUDY ON DEVELOPMENT OF NEW HIGHER PERFORMANCE ANCHORS FOR MARINE ACCIDENT PREVENTION" Proceedings of the ASME 33rd International Conference on Ocean, Offshore and Arctic Engineering (OMAE'14), ASME, CD-ROM, 2014.5
- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, NAKAZAWA Naseru, RHEEM Chang-Kyu, ETO Hiroaki, and KINOSHITA Takeshi: Effects of the Number of Performances of a Variable-Pitch Type VAT, Grand Renewable Energy 2014 and 2nd Asian Wave and Tidal Energy Conference (AWTEC-2014), 2014.8

- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, and MAEDA Hisaaki: Effects of the projecting walls on an OWC type wave energy converter for improvement of Power Take-Off performance, Maritime Technology and Engineering, VOLUME 2, pp.1279-1285, 2015.10
- ◆恵藤浩朗, 佐藤千昭, 増田光一, 居駒知樹, 清水研, 畔柳昭雄, 山口順子: 河川を活用した浮体式災害時医療支援システムの実現可能性に関する基礎的検討, 日本船舶海洋工学会論文集, Vol.19, pp.245-253, 2014.8
- ◆増田光弘, 南清和, 増田光一, 居駒知樹: 増しもやいによる岸壁係留船舶の津波防災対策に関する研究(その1), 日本船舶海洋工学会論文集, Vol.19, pp.61-68, 2014.8
- ◆居駒知樹, 増田光一, 中澤那世留, 林昌奎, 恵藤浩朗: 垂直軸可変ピッチ翼水車のソリディティとピッチ制御角度が水車効率に与える影響, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.70, No.10, 2014.6
- ◆増田光弘, 南清和, 増田光一, 居駒知樹: 浮体式津波対策用岸壁による船舶の津波防災・減災対策に関する基礎的研究, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.70, No.2, 2014.6
- ◆増田光一, 村田一城, 居駒知樹, 増田光弘, 大野正人: 津波波高および入射角度影響を考慮した浮桟橋による船舶の津波防災, 減災対策に関する基礎的研究, 土木学会論文集 B3 (海洋開発), Vol.70, No.2, 2014.6
- ◆増田光弘, 橋本洋祐, 南清和, 増田光一: 津波来襲時における岸壁に係留された船舶の防災・減災対策に関する研究(その2) 一浮桟橋の有効性について一, 日本航海学会論文集, Vol.131, pp.125-130
- ◆増田光弘, 南清和, 増田光一: 津波来襲時における岸壁に係留された船舶の防災・減災対策に関する研究(その3) 一浮体式津波対策用岸壁の提案一, 日本航海学会論文集, Vol.131, pp.131-138

教員研究業績
研究室活動業績

口頭発表・ポスター発表

- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, NAKAZAWA Naseru, RHEEM Chang-Kyu, ETO Hiroaki, and KINOSHITA Takeshi : Effects of the Number of Blades on Performances of a Variable-Pitch Type Vat, Grand Renewable Energy, 2014.8
- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, RHEEM Chang-Kyu, ETO Hiroaki and KINOSHITA Takeshi : Consideration of The Setting Of A Pitch-Controllable Vat For High Efficiency, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆ETO Hiroaki, SATO Chiaki, MASUDA Koichi, IKOMA Tomoki, SHIMIZU Ken, KUROYANAGI Akio, KOBAYASHI Akio, TOGAWA Sachio, Tsuboi Sotaro, KINOSHITA Kosaku, YAMAGUCHI Junko, SAITO Toshikatsu, TAKADA Masako and TANIGOME Atsuko : Feasibility study of Medi-Float installed in the river, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆MASUDA Mitsuhiro, MINAMI Kiyokazu and MASUDA Koichi : A Fundamental Study on Floating Tsunami Protection Wharf for Moored Vessels, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆MASUDA Koichi, SHIMIZU Ken, ETO Hiroaki, SATO Chiaki, IKOMA Tomoki, KUROYANAGI Akio, KOBAYASHI Akio, TOGAWA Sachio, Tsuboi Sotaro, KINOSHITA Kosaku, YAMAGUCHI Junko, SAITO Toshikatsu, TAKADA Masako and TANIGOME Atsuko : Floor Planning and Structural Design of Floating Medical Support of Disaster, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆AIDA Yasuhiro, MASUDA Koichi, IKOMA Tomoki and ETO Hiroaki : Impact Velocity of a Drifting Object in Tsunami Flow Field, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆MASUDA Koichi, MURATA Kazuki, IKOMA Tomoki and MIYAMOTO Takujiro : A Fundamental Research of Tsunami Damage Control of Ships in A Harbor, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆IKOMA Tomoki, WATANABE Yuka, MASUDA Koichi, ETO Hiroaki, KINOSHITA Takeshi and RHEEM Chang-kyu, " Elastic Response And PTO Of Large Floating Structure With OWC Type WECs" The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, ENOMOTO Osamu, ETO Hiroaki, RHEEM Chang-kyu and KINOSHITA Takeshi, "Relation between the Number of Blades and the Turbine Efficiency of a Pitch-Controllable VAT," The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, TAKAHATAKE Madoka, KIHARA Kazuyoshi, ETO Hiroaki, and MAEDA Hisaaki : The Feasibility Of Application Of A Double Wave Absorbing Caisson To A Wave Energy Converter -Performance Evaluation Of Power Take-Off-, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆MASUDA Koichi, HOSHINO Satoshi, IKOMA Tomoki and ETO Hiroaki : A Proposal Method to Estimate the Difficulty Evacuation Zone by Tsunami, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆MASUDA Koichi, SEKI Takahito, IKOMA Tomoki and ETO Hiroaki : Feasibility of Water Transportation Networks of Relief Supplies in a Disaster in Tokyo, The 24th Pacific Congress on Marine Science and Technology (PACON), 2014.8
- ◆IKOMA Tomoki, MASUDA Koichi, ETO Hiroaki, MAEDA Hisaaki and KINOSHITA Takeshi : Effects of the Projecting - Walls on Power Take - Off of OWC Type WECs in Every Installation Condition, International Conference on Maritime Technology (ICMT2014), 2014.7
- ◆AIDA Yasuhiro : Improvement of the MPS Method for Ocean Development, International Conference on Maritime Technology (ICMT2014), 2014.7
- ◆MURATA Kazuki, MASUDA Koichi, IKOMA Tomoki, AIDA Yasuhiro, ETO Hiroaki and OHNO Masato : A Study on the Effectiveness of Tsunami Countermeasure of the Vessel Using the Dolphin-Moored Floating Body by MPS Method, International Conference on Maritime Technology (ICMT2014), 2014.7
- ◆AIDA Yasuhiro : A Study on a Hydrodynamic Force of Tsunami acting on an Architectural Structure on Coastal Areas with the MPS Method, International Maritime Academic Collaboration Workshop, 2014.8
- ◆MURATA Kazuki : A Fundamental Research on the Behaviors of Ships Moored to Floating Pier in Tsunami -The Effects of Tsunami Height and Incident Angle-, International Maritime Academic Collaboration Workshop, 2014.8
- ◆恵藤浩朗, 増田光一, 居駒知樹, 佐藤千昭, 清水研 : 河川上に設置する災害時医療支援浮体に関する基礎的研究—その1. 適地選定及び運用に関する検討—, 日本建築学会大会 (近畿), pp.33-34, 2014.9
- ◆清水研, 増田光一, 恵藤浩朗, 居駒知樹, 佐藤千昭 : 河川上に設置する災害時医療支援浮体に関する基礎的研究—その2. 平面計画及び構造計画に関する検討—, 日本建築学会大会 (近畿), pp.35-36, 2014.9
- ◆関貴仁, 星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 相田康洋, 高山淳平 : 津波遡上時における避難施設配置計画の評価に関する研究 —その1 3次元エージェント時刻歴行動シミュレーションの提案—, 日本建築学会大会 (近畿), pp.13-14, 2014.9
- ◆星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 相田康洋, 関貴仁 : 津波遡上時における避難施設配置計画の評価に関する研究 —その2 避難準備時間の可視化—, 日本建築学会大会 (近畿), pp.15-16, 2014.9
- ◆相田康洋, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗 : MPS法における津波波力作用時の建築物壁面圧力に関する基礎的研究, 日本建築学会大会 (近畿), pp.49-50, 2014.9
- ◆村田一城, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗 : 湾内における浮体式棧橋を用いた船舶, 浮体の津波被害低減効果に関する基礎的研究, 日本建築学会大会 (近畿), pp.9-10, 2014.9
- ◆渡邊由香, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 前田久明, 木下健 : 波浪発電装置が搭載されている大型浮体の発電性能に関する研究, 日本建築学会大会 (近畿), pp.27-28, 2014.9
- ◆高島まどか, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 前田久明 : OWC型波力発電装置の波パワー吸収特性における非線形影響について, 日本建築学会大会 (近畿), pp.29-30, 2014.9
- ◆榎本修, 居駒知樹, 増田光一, 恵藤浩朗, 木下健 : 浮体式PW-OWC型波力発電装置の一次変換係数に関する実験的研究, 日本建築学会大会 (近畿), pp.31-32, 2014.9
- ◆相田康洋, 星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗 : 粒子法による津波作用時のコンテナ群の荷崩れと漂流シミュレーションに関する研究, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第18号, ISSN 2185-1840, pp.129-132, 2014.5
- ◆増田光一, 居駒知樹, 恵藤浩朗, 村田一城, 宮本卓次郎, 大野正人 : 港湾における浮体式棧橋を用いた船舶の津波被害低減法に関する基礎的研究, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第18号, ISSN 2185-1840, pp.527-530, 2014.5
- ◆増田光弘, 南清和, 橋本洋佑, 増田光一 : 浮体式津波対策用岸壁の防災性能に関する基礎的研究, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第18号, pp.89-92, 2014.5
- ◆恵藤浩朗, 増田光一, 居駒知樹, 佐藤千昭, 清水研, 村田一城, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井望太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子 : 浮体式災害時医療支援システムの実現性に関する基礎的検討, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第18号, ISSN 2185-1840, pp.531-534, 2014.5
- ◆増田光弘, 南清和, 増田光一 : 津波来襲時における岸壁係留船舶の縦波に対する係留方法に関する基礎的研究, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第19号, pp.575-578, 2014.11

教員研究業績
研究室活動業績

- ◆居駒知樹, 増田光一, 中澤那世留, 林昌奎, 惠藤浩朗, 木下健: 可変ピッチ垂直軸水車におけるピッチ角とソリディティ影響, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第18号, pp.323-324, 2014.5
- ◆居駒知樹, 増田光一, 惠藤浩朗, 田口裕之, 大澤弘敬, 木原一禎: プロジェクティングウォールがOWC型波力エネルギー変換装置の一次変換性能に与える効果—第3報 周辺護岸の影響—, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第18号, pp.555-558, 2014.5.
- ◆星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 大野正人, 村田一城: 津波作用時における港湾内の船舶を対象とした海域津波ハザードマップに関する基礎的研究, 日本船舶海洋工学学会講演会論文集, 第19号, ISSN 2185-1840, pp.583-586, 2014.11
- ◆居駒知樹, 増田光一, 木原一禎, 惠藤浩朗, 大澤弘敬, 宮崎剛, 高島まどか: 消波ケーソンを利用したPW-OWC型波力発電装置の実現可能性に関する実験的検証, 日本沿岸域学会研究討論会2014講演梗概集, CD-ROM, 2014.7
- ◆星野智史, 増田光一, 居駒知樹, 惠藤浩朗, 相田康洋: 港湾内に係留された船舶のための津波ハザードマップ開発に関する基礎的研究, 日本沿岸域学会研究討論会2014講演梗概集, CD-ROM, 2014.7
- ◆増田光一, 惠藤浩朗, 居駒知樹, 佐藤千昭, 清水研, 村田一城, 畔柳昭雄, 小林昭男, 登川幸生, 坪井望太郎, 丹正勝久, 木下浩作, 山口順子, 齋藤俊克, 高田昌子, 谷米温子: 河川を活用した災害時医療支援浮体の基本計画, 日本沿岸域学会研究討論会2014講演梗概集, CD-ROM, 2014.7
- ◆清水研, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 増田光一, 居駒知樹: 河川を含む水域を活用した災害時医療支援システムの提案—その3. 医療浮体の適地選定および運用方法に関する検討—, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆鈴木航太, 岸田智之, 増田光一, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 清水研: 大型石炭貯蔵浮体の応答解析—大型石炭貯蔵浮体の弾性応答解析に関する基礎的研究—, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆谷口幸之輔, 中島麻悠美, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 増田光一, 清水研: 河川を含む水域を活用した災害時医療支援システムの提案—その4. 透析センターとして運用する災害時医療支援浮体の基本計画—, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆山本卓, 増田光一, 惠藤浩朗, 福岡哲二, 居駒知樹, 佐藤千昭, 清水研: PSV用浮体式拠点港におけるOWC型ダンパー効果に関する基礎的研究, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆吉岡久輝, 惠藤浩朗, 佐藤千昭, 居駒知樹, 増田光一, 清水研: 係留システムに関する基礎的研究, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆榎本修, 居駒知樹, 増田光一, 惠藤浩朗, 木下健, 林昌奎: 浮体式垂直軸型可変ピッチ翼水車の実証実験に向けた研究—新潟県粟島予備実験について—, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆高島まどか, 居駒知樹, 増田光一, 惠藤浩朗, 木原一禎, 前田久明: 消波ケーソンを利用したOWC型波力発電装置の実現可能性に関する研究, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆居駒知樹: スコットランドの海洋工学研究と博士課程教育の動向—ストラスカライド大学を例に—, 第58回日本大学理工学部学術講演会, 海洋建築部会, 2014.12
- ◆笹原 裕太郎, 増田 光弘, 南 清和, 増田 光一: 浮体式OWC型波力発電装置の性能推定に対するMPS法の適用性に関する研究, 日本航海学会講演予稿集, Vol.2, No.1, pp.50-51, 2014
- ◆増田 光弘, 橋本 洋佑, 南 清和, 増田 光一: 津波来襲時における岸壁に係留された船舶の防災・減災対策に関する研究(その4)—浮体式津波対策用岸壁の有効性について—, 日本航海学会講演予稿集, Vol.2, No.1, pp.64-65, 2014

受賞

- ◆MASUDA Koichi: DISTINGUISHED MEMBER AWARD, PACON INTERNATIONAL
- ◆IKOMA Tomoki: SERVICE AWARD, PACON INTERNATIONAL

学外活動 (講演・講師等)

- ◆居駒知樹: [Development of Marine Renewable Energy in Japan], リスボン大学 Instituto Superior Technico (IST), CENTEC (招聘講演), 2014.7.
- ◆居駒知樹: [可変ピッチ垂直軸水車の開発と性能評価], FLOW-3D User

Conference Asia in 2014 (招待講演), 2014.10.

- ◆居駒知樹: [最近の海洋再生可能エネルギー研究開発と今後], 土木学会関東支部新潟会定例講演会 (招待講演), 2014.11.
- ◆居駒知樹: [IDCOREにみる博士技術者の養成] 第2回大学院博士技術者教育シンポジウム (基調講演), およびパネラー, 2015.1.
- ◆居駒知樹: [海洋エネルギー開発の最近の動向および実証フィールドの先進事例の紹介], 新潟県海洋エネルギー研究会ワークショップ (招待講演), 2015.2.

学外活動

【増田光一】

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 (幹事)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築フィールド小委員会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋教育ストラテジ委員会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 (メンバー)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (幹事)
- ◆日本海洋工学学会 (理事)
- ◆日本海洋工学学会 (運営委員)
- ◆日本海洋工学学会・海洋工学シンポジウム (実行委員長)
- ◆海洋エネルギー資源利用推進機構・波浪エネルギー分科会 (委員)
- ◆海洋工学懇談会 (幹事)
- ◆PACON International (Bord of Director)
- ◆PACON2014 Local Organizing Committee, Technical Program Committee (委員)
- ◆東京大学生産技術研究所 (研究員)
- ◆テクノオアシスネットワーク (理事)

【居駒知樹】

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会本委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築フィールド小委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築イノベーション小委員会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋教育推進委員会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会 (メンバー)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋環境研究会 (メンバー)
- ◆日本沿岸域学会・企画運営委員会 (委員)
- ◆日本海洋工学学会・海洋工学シンポジウム (実行委員)
- ◆海洋エネルギー資源利用推進機構・波力分科会 (委員), 海流・潮流・潮汐分科会 (委員)
- ◆海洋工学懇談会 (幹事)
- ◆Grand Renewable Energy Conference 2014 分科会8 Ocean Energy (Co-Reader)
- ◆AWTEC2014 国内委員会 (委員)
- ◆PACON2014 Local Organizing Committee, Technical Program Committee (委員)
- ◆OMAE2014 Session Organizer
- ◆OMAE2015 Topics Organizer
- ◆IWSH2015 International Scientific Committee (委員)
- ◆IEC-TC114 国内委員会 (委員)
- ◆IEC-TC114 波力装置実証試験法 (62600-103) 検討委員会 日本代表委員
- ◆東京大学生産技術研究所 (研究員)

【惠藤浩朗】

- ◆日本建築学会・海洋建築委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築デザイン小委員会 (幹事)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会・海洋建築イノベーション小委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・技術報告集委員会 (部門幹事)
- ◆日本船舶海洋工学学会・海洋工学研究会・構造部会 (委員)
- ◆日本船舶海洋工学学会・東支部編集委員会 (委員)
- ◆日本海洋工学学会・海洋工学シンポジウム (実行委員)
- ◆PACON2014 Local Organizing Committee, Technical Program Committee (委員)
- ◆VCAD システム研究会 (研究員)
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・第一分科会 (運営委員長)
- ◆私立大学キャンパスシステム研究会・メディアコミュニケーション局 (運営委員長)

教員研究業績 研究室活動業績

海外出張・海外調査

- ◆増田光一：OMAE2014 講演，米国，2014.6.7-15
- ◆増田光一：浮体調査，香港，2014.10.3-6
- ◆居駒知樹：OMAE2014 参加，米国，2014.6.7-15
- ◆居駒知樹：国際会議 ICMT2014 講演，ポルトガルにて招待講演，イギリス，ポルトガル，2014.7.5-17
- ◆居駒知樹：国際会議 MARTECH2014 参加，潮流発電サイト見学，ポルトガル，イギリス，2014.10.14-24
- ◆惠藤浩朗：台湾成功大学講演，シンポジウム参加，台湾，2013.3.17-19

研究助成・委託研究

- ◆増田光一：(財)港湾空港技術サービス寄付金，作業船の津波による被害とその対策に関する研究
- ◆増田光一，木下健：東京大学生産技術研究所研究奨励寄付金，海洋再生エネルギーに関する研究
- ◆居駒知樹：日本学術振興会，科学研究費補助金，基盤研究 (C)，能動的ピッチ制御を適用した潮流・海流発電のための高性能垂直軸型水車の研究開発 (代表者)

大塚研究室

審査付論文

- ◆大塚文和・川西利昌・増田光一：東京湾におけるアサリ浮遊幼生の鉛直移動を考慮したモデル構築について，日本沿岸学会誌，27 巻，1 号，2014 年 6 月
- ◆川西利昌・大塚文和：紅斑紫外放射輝度分布を用いた紫外線日除けチャート作成と海浜日除けの建築的太陽防衛指数 ASPF，日本建築学会環境系論文集，79 巻，700 号，2014 年 6 月
- ◆川西利昌・大塚文和：電子走査式天空紅斑紫外放射輝度分布測定装置を用いた天空走査時間に関する研究，日本建築学会環境系論文集，79 巻，701 号，2014 年 7 月
- ◆川西利昌・大塚文和：夏期曇天時の天空紅斑紫外放射輝度分布とパラソルの建築的太陽防衛指数，日本建築学会環境系論文集，79 巻，703 号，2014 年 9 月

口頭発表・ポスター発表

- ◆大塚文和・下山航大・川西利昌・増田光一：東京湾におけるアサリ幼生の鉛直分布特性について，日本沿岸学会研究討論会，2014 年 7 月
- ◆大塚文和・吉松亮一・川西利昌・増田光一：東京湾における熱環境の変動解析，日本沿岸学会研究討論会，2014 年 7 月
- ◆篠原裕希・大塚文和・川西利昌：船橋三番瀬海浜公園における放射性物質の実態解析について，第 58 回日本大学理工学部学術講演会，2014 年 12 月
- ◆藤井瑠行・大塚文和・川西利昌：葛西臨海公園西なぎさ海浜における放射線量

- 実態解析について，第 58 回日本大学理工学部学術講演会，2014 年 12 月
- ◆吉松亮一・大塚文和・川西利昌：東京湾における熱環境に関する基礎的研究，第 58 回日本大学理工学部学術講演会，2014 年 12 月

著書・執筆等

- ◆日本建築学会著「海洋建築の計画・設計指針」，日本建築学会，2015 年 2 月
- ◆「東日本大震災合同調査報告」建築編 5，日本建築学会 他，2015 年 3 月

学外活動

- 【大塚文和】
- ◆日本沿岸学会・論文委員会 (委員)
- ◆海洋調査技術学会・企画委員会 (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築委員会海洋建築設計指針作成 WG (委員)
- ◆日本建築学会・海洋建築エンジニアリング小委員会 (委員)
- ◆日本建築学会 卒業論文等顕彰事業委員会 (委員)

海外出張・海外調査

- ◆平成 26 年度理工学部海外派遣研究員 (短期 B) としてカナダ，アメリカに出張「北半球における地球温暖化と環境変化に関する調査研究」，H26.8.13 ~ 9.2

岡本研究室

審査付論文

- ◆岡本 強 一，堀 田 健 治：Purification System of Ocean Sludge by Activating Microorganisms, International Journal of GEOMATE (Geotechnique, Construction Materials and Environment), 2014.3
- ◆平野 廣 佑，西宮 伸 幸，遠山 岳 史，岡本 強 一：Decontamination of Radioactive Cesium from Sea Sludge using Microbial Activity, Key Engineering Materials, 2014.7

口頭発表・ポスター発表

- ◆岡本 強 一，遠山 岳 史：DECONTAMINATION OF RADIOACTIVE CESIUM FROM OCEAN SLUDGE BY MICRO-BUBBLE AND MICROORGANISMS, International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Brisbane, Australia, Nov. 19-21, 2014.11
- ◆平野 祐 佑，遠山 岳 史，西宮 伸 幸，岡本 強 一：REMOVAL OF CESIUM FROM SEA SLUDGE THROUGH DECOMPOSITION OF ORGANIC MATTERS BY AQUEOUS HYDROGEN PEROXIDE, International Conference on Geotechnique, Construction Materials and Environment, Brisbane, Australia, Nov. 19-21, 2014.11
- ◆岡本 強 一，遠山 岳 史，海の除染：マイクロバブルと微生物活性を利用した海底堆積汚泥からの放射性セシウムの除去，日本船舶海洋工学会講演会論文集，2014.5
- ◆曾根孝亮，山下和浩，岡本 強 一，循環型浄化システムによる堆積汚泥の浄化過程における微生物の特定，日本沿岸学会，2014.7
- ◆山下和浩，岡本 強 一，マイクロバブルと微生物活性剤を用いた堆積汚泥の浄化実験－活性剤の酵素成分比率による浄化性能－，日本沿岸学会，2014.7

- ◆天野雅康 曾根孝亮 岡本 強 一，ナノバブルを用いた循環浄化システムによる堆積汚泥の浄化実験，日本大学理工学部学術講演会論文集，2014.12
- ◆稲村 綾人，坂間 一貴，堀内 嵩之，岡本 強 一，循環型浄化システムを用いた堆積汚泥からの放射性セシウムの除去に関する研究 塩化カリウムを用いた場合の溶出性能，日本大学理工学部学術講演会論文集，2014.12
- ◆山下和浩，岡本 強 一，鉛直流方式による循環型浄化システムを用いた堆積汚泥の浄化 ーその 1 水平流方式との浄化性能の比較ー，日本大学理工学部学術講演会論文集，2014.12
- ◆川村裕幸，中村和広，助友俊文，小林優太郎，田口雅章，山下和浩，岡本 強 一，鉛直流方式による循環型浄化システムを用いた堆積汚泥の浄化，その 2. 揚程を考慮した際の流量変化による浄化性能，日本大学理工学部学術講演会論文集，2014.12
- ◆塚野幹大，岡本 強 一，藤野正俊，北澤大輔，炭素電極を用いた電気分解による水質浄化実験 ー実験水の容量の違いによる浄化性能ー，日本水環境学会，2015.3

学外活動

- ◆(社)日本船舶海洋工学会・海洋環境研究会 (委員)
- ◆(社)日本船舶海洋工学会・IMPACT 研究委員会 (委員)
- ◆NPO 海の森づくり推進協議会 (理事)
- ◆東京大学生産技術研究所 (協力研究員)

海外出張・海外調査

- ◆岡本 強 一：欧米諸国における環境再生技術の現状調査 (平成 26 年度海外派遣研究員として)，欧米諸国 (フランス，イギリス，米国)，2014.8.28 ~ 9.26.
- ◆岡本 強 一：国際会議 GEOMATE (International Conference on

教員研究業績 研究室活動業績

Geotechnique, Construction Materials and Environment) 2014にて論文発表、オーストラリア・ブリスベン、2014、11.18-11.22

研究助成・委託研究

- ◆岡本強一：科学技術研究費、基盤研究（C）、「海の除染：マイクロバブルと微生物を利用した海底堆積汚泥からの放射性セシウムの除去」

小林・野志研究室

審査付論文

- ◆三田航平・小林昭男・宇多高明・野志保仁：富津岬北岸の漂砂特性と2011年大津波による砂の押し込み、土木学会論文集B3（海洋開発）、vol.70、L600-L605、2014年6月
- ◆芹沢真澄・宇多高明・小林昭男・宮原志帆：BGモデルによる富津岬先端部砂州の大変動の再現計算、土木学会論文集B3（海洋開発）、vol.70、L636-L641、2014年6月
- ◆野志保仁・北村俊介・宇多高明・小林昭男・星上幸良：千葉県日在浦海岸における海浜変形、土木学会論文集B3（海洋開発）、vol.70、L660-L665、2014年6月
- ◆小林昭男・草木大地・宇多高明・野志保仁：神向寺・明石海岸での礫層上への砂の堆積機構の観測、土木学会論文集B3（海洋開発）、vol.70、L690-L695、2014年6月
- ◆荒川大輝・小林昭男・宇多高明・野志保仁・星上幸良：上総湊の湊川から磯根崎で進む海岸侵食とその機構、土木学会論文集B3（海洋開発）、vol.70、L720-L725、2014年6月
- ◆宇多高明・水垣 浩・宇野晃一・野志保仁：BGモデルによる海底地形と粒径変化の予測・北九十九里浜への適用、土木学会論文集B2（海岸工学）、vol.70、L541-L545、2014年11月
- ◆古屋成吉・小林昭男・宇多高明・野志保仁：館山湾内に位置する沖ノ島背後におけるトンボロの形成機構、土木学会論文集B2（海岸工学）、vol.70、L641-L645、2014年11月
- ◆Yasuhiro Noshi, Takaaki Uda：PREDICTION OF CHANGES IN TOPOGRAPHY AND GRAIN SIZE OF SEABED MATERIALS USING BG MODEL, Proc. The 34th International Conference on Coastal Engineering, June, 2014 (in press).
- ◆Akio Kobayashi, Takaaki Uda, Masumi Serizawa, Shiho Miyahara and Masatoshi Endo：NUMERICAL SIMULATION OF DEFORMATION OF SAND BAR FORMED AT TIP OF FUTTSU CUSPATE FORELAND BY THE 2011 TSUNAMI, Proc. The 34th International Conference on Coastal Engineering, June, 2014 (in press).

口頭発表・ポスター発表

- ◆宇多高明、星上幸良、野志保仁：島根県野波海岸に見る過疎化地域での海岸人工化と将来、日本沿岸域学会研究討論会講演概要集（CD-ROM）、論文No.04-02、2014年7月
- ◆小林昭男、宇多高明、野志保仁、吉野貴之：富津岬南岸に位置する布引海岸の

侵食とBGモデルによる地形変化の再現、日本沿岸域学会研究討論会講演概要集（CD-ROM）、論文No.04-03、2014年7月

- ◆Akio Kobayashi, Takaaki Uda, Yasuhiro Noshi：SHORELINE DEVASTATION OF HOTA COAST BY MAN-MADE CAUSES, SDNEE, October, 2014.
- ◆Takaaki Uda, Yasuhiro Noshi, Akio Kobayashi, Shiho Miyahara, Masumi Serizawa：BEACH CHANGES OBSERVED IN PHAN RANG CITY IN SOUTHEAST VIETNAM, SDNEE, October, 2014.

社会活動

- ◆市原市建築審査会（委員）

学会活動

- ◆日本沿岸域学会（理事）
- ◆日本海洋工学会（理事）
- ◆日本海洋工学会：運営委員会委員（委員）
- ◆土木学会・海岸工学委員会・沿岸域研究連携推進小委員会（委員）
- ◆土木学会・海洋開発論文集査読委員会（委員）
- ◆日本建築学会・海洋建築本委員会（委員）
- ◆日本建築学会・優秀卒業修士論文集選考委員会（委員）

海外出張・海外調査

- ◆小林昭男・野志保仁：第34回国際海岸工学会 ICCE2014での研究発表と情報収集、韓国・ソウル、2014年6月15日～2013年6月21日
- ◆小林昭男・野志保仁：ベトナム天然資源環境大学でのセミナー参加とホーチミン天然資源環境大学との学術交流、ベトナム・ホーチミン、2014年10月23日～2013年10月27日
- ◆小林昭男：韓国海洋水産開発院主催のセミナーでの講演、2014年12月3日～2014年12月6日

研究助成・委託研究

- ◆小林昭男：日本学術振興会・科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）基盤研究（C）、礫養浜後の堆砂機構の解明と数値予測モデルの構築
- ◆野志保仁：日本大学理工学部理工学研究所委託研究、千葉県九十九里浜における海浜変形計算
- ◆小林昭男：日本大学理工学部理工学研究所委託研究、沼川新放水路水理模型実験

平成
26
年度

卒業生の就職状況

就職指導委員 浜原正行

1. 全体状況

本年度（2015年2月10日現在）の就職内定率は学部96.3%、大学院94.1%、全体で96.0%であり、昨年の全体での就職内定率94.1%を2ポイント上回るなど、引き続き堅調に推移しています。これは、日本経済におけるアベノミクス効果、東日本大震災復興需要、東京オリンピックの開催決定等によるものであると考えられ、今後もこの好調は維持する可能性が高いと思われます。就職活動にあたっては、

学科が積極的なサポートと企業の紹介を行い、一人でも多く就職内定を勝ち取るよう働きかけています。

2. 業種別就職状況

本学科における就職先は、建設業（ゼネコン）が最も多く69名（58.0%）を占めているほか、建設関連業14名（11.8%）、住宅・不動産業13名（10.9%）であり、全体の80.7%を占めています。また、設計事務所6名（5.0%）のほか、割合は必ずしも高くないものの、海洋・コンサルタント業

6名(5.0%)への就職先がみられるのも、本学科の特徴です。いずれも業界屈指の大手企業から一定数の内定が得られています。

3. 次年度の就職活動に向けて

本年度までの就活の解禁12月でしたが、次年度からは3月に後ろ倒しとなります。これは就活の期間が3ヶ月間短縮されたことを意味し、短期決戦の様相を呈すこととなります。このような状況を乗り切るためには、例年にも増して、3月の時点で自分の進路をしっかりと定め、短期決戦に備えるということが重要なポイントになります。本年度の内定状況がかなり良好であったからといって、決して進路決定のステップを疎かにしないでください。さらに、好景気だからといって、採用に至るまでのハードルは、決して低くなっているわけではありません。ある建設会社における採用プロセスの一例を以下に示します。

- ① エントリーシート提出
(本学・学科OB、OGによるリクレーター面接)
- ② SPI試験
- ③ 人事担当者による面接
- ④ 専門試験
- ⑤ 役員による面接
- ⑥ 内定

本プロセスにおいて、②のSPI試験では言語能力と数的能力が試されます。③および⑤の面接では、志望動機は勿論のこと、これまでの生き方を含む、全人格を問われる内容が主に質問されます。また、個々の質問では、エントリーシートで書いた内容(長所や短所など)がチェックされます。さらに、④の専門試験では、構造、施工、法規、計画などの多岐に亘る内容が出題されます。このようなハードルを乗り越えるためには、まず、日頃から学業に熱心に取り組むことが大切です。専門試験以外のハードルを越えるためには、学内の就職セミナーの活用がとても効果的です。理工学部では、エントリーシートの書き方、SPI試験の対策、面接対策などの系統立てた就職対策セミナー及び公務員試験対策セミナーを開催しています。就職を希望する学生、公務員を希望する学生は是非参加してください。

学科の就職指導には担当教員(1名)と学科事務(2名)が担当しており、求人票やパンフレットの管理、履歴書の配布などはもとより、さまざまな進路相談も受け付けています。就職活動に際して、困ったことがあったらいつでも気軽に相談ください。また、就職活動開始前に、必ず「NU就職ナビ」に個人情報を登録してください。本サイトに登録することで、求人情報が指定のメールアドレスに届くほか、就職活動において様々な有益な情報を得ることができます。

表1 就職・進学状況(学部・大学院)

	学部			大学院			学部・院 合計	学部・院合計	
	男子	女子	男女合計	男子	女子	男女合計		25年度	24年度
合計(人)	123	11	134	15	2	17	151	148	134
就職希望者(人)	98	9	107	15	2	17	124	118	107
内定	94	9	103	14	2	16	119	111	90
未定	4	0	4	1	0	0	5	5	17
内定率(%)	95.9	100	96.3	93.3	100	94.1	96	94.1	84.1
大学院進学(人)	20	2	22	0	0	0	22	27	23
本学	18	2	20	0	0	0	20	27	20
他大学	2	0	2	0	0	0	0	0	3
その他(人)	5	0	5	0	0	0	5	3	4
研究生	0	0	0	0	0	0	0	0	0
留学(希望者含む)	0	0	0	0	0	0	0	1	1
専門学校	0	0	0	0	0	0	0	1	0
次年度公務員志望	2	0	2	0	0	0	2	0	1
就職意思のない者	3	0	3	0	0	0	3	1	2

◀本年度の主要就職内定先▶

- 建設業 …… 清水建設/大成建設/竹中工務店/奥村組/熊谷組/鴻池組/五洋建設/東亜建設工業/東急建設/フジタ/西松建設/前田建設工業/飛鳥建設
- 住宅不動産業 …… 積水ハイム/大和ハウス工業/東急ホームズ/パナホーム/ポラス/三井ホーム/
- 海洋・コンサルタント業 …… オリエンタルコンサルタンツ/構造計画研究所/サンユウシビルエンジニアリング/日本

工営/月島環境エンジニアリング/日揮プラントイノベーション

- 設計事務所 …… TAKシステムズ/プランテック/高島屋スペースクリエイツ
- 建設関連 …… 栗田工業/丹青社/富士ピーエス/日本設備工業/ユニットシステムエンジニアリング
- その他 …… 日本電子計算/JR東日本ビルテック
- 公務員 …… 東京都/足立区

海と建築

vol.
6

香 港発祥の地とされる香港仔、英語読みではアバディーンと呼ばれる。ここは香港島の南部に位置する島陰の入江で、ここには水上生活者“蜑民”によってつくられた水上集落があった。この水上集落は、彼らの生活の場・仕事場となる JUNK や SAMPAN と呼ばれる大小の船で構成されていた。水上集落は陸上の集落とそん色なく、学校から教会、病院、レストラン等々、ほとんどのものが水上に揃っていた。ただ、唯一彼らの信仰する媽祖は陸上に祀られていた。

水 上集落には人々の喧騒があり、家となる船を縫うようにして物売りの小舟が走り回り、活気がみなぎっていた。こうした水上の風景を松任谷由美が“Hong Kong Night Sight”（1981年）と歌っている。この歌が発表された頃は歌詞に書かれたように JUNK が群れ、水上集落が形成されていたが、香港の中国への返還を前に政策的に陸揚げが押し進められ、水上集落は消えて行き、今は JUNK の浮かんでいた水面には漁船が混ざり、豪華な大型クルーザーが停泊し、昔の面影は水上レストランだけとなっている。

この水上レストランは、40年以上前につくられ当時は2隻浮かんでいたが、今は1隻だけとなっている。ここは香港を訪れる観光客には昔の香港仔を彷彿させる人気の場所となっており、棧橋から水上レストランに至るまで小舟に揺られる僅かな時間が楽しいひと時である。



香港仔（アバディーン）に浮かぶ水上レストラン



教員異動

- 就任：特任教授 中西三和 先生
- 退職：特任教授 堀田健治 先生 （異動先）日本大学理工学部海洋建築工学科 上席研究員
- 退職：特任教授 木下 健 先生 （異動先）長崎総合科学大学 学長
- 退職：准教授 坪井塑太郎 先生 （異動先）公益財団法人 ひょうご震災記念 21世紀研究機構 阪神淡路大震災記念 人と防災未来センター 研究員

海建

カイケンマガジン No.98 発行者／小林昭男 発行日／平成27年4月1日

〒274-8501 千葉県船橋市習志野台7-24-1
日本大学理工学部海洋建築工学科教室
Tel：047-469-5420（事務室） Fax：047-467-9446

編集委員：畔柳昭雄、坪井塑太郎
<http://www.ocean.cst.nihon-u.ac.jp>
デザイン制作—QB System Co.,LTD.